

【別紙2】

〈授業改善推進プラン 令和6年度第1学年 国語科〉

1. 『わかる』から『できる』を体感する授業を実現する上で解決すべき課題

- ・音読は、言葉のまとまりを意識してすらすら読むことができている。しかし、平仮名の書きに関しては、文章を書くときに平仮名を忘れていた場面があるので、繰り返し復習が必要である。
- ・文章問題を解く経験が少ないため、物語や質問を自分で読んで答えることが難しい傾向にある。

2. 課題改善に向けた取組状況

(1) 令和4年度授業改善推進プラン記載内容

- ・令和4年度は未就学児のため、記載なし。

(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業を実現するための工夫等

- ・音読用のスキルを活用して、短い文を繰り返し読み、言葉のまとまりを意識して音読ができるようにしている。
- ・平仮名の定着を図るために、授業の導入やベーシックタイム、宿題等で繰り返し復習を行っている。
- ・物語を繰り返し読んだり、動作化したりして物語の世界に入っていけるようにしている。

3. 課題の改善に向けた方策と検証方法

＜方策＞

- ①授業の導入やベーシックタイムで平仮名の復習を行い、書き順や五十音の書きを定着させる。
- ②挿絵から想像したり、動作化したりして、楽しみながらお話の内容を理解できるようにしていく。また、読み聞かせをするなどして多くの関連図書に触れられるようにしていく。

＜検証方法＞

- ①2学期末の期末テストや、豆テストでの正答率
- ②物語文のまとめテストで、問われていることを理解し、問いに合う答えを見つけて書くことができているか。

4. 検証結果(成果と課題)

＜成果＞

- ・繰り返し練習を行ったことで、平仮名・片仮名・漢字をスムーズに読み書きできるようになった。
- ・登場人物になりきって動作化を行ったことで、お話の様子を想像することができるようになった。

＜課題＞

- ・書き順を正しく覚えられなかったり、書字が乱れたりする。

5. 令和7年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項

- ・書字の際には、姿勢・鉛筆の持ち方だけでなく、「とめ・はね・はらい」や形を意識して、常に丁寧に文字を書くことを指導していく。

6. 令和7年度(次学年)末に期待する児童の姿

自分の考えを文章や発表で表現できる児童

【別紙2】

〈授業改善推進プラン 令和6年度第1学年 算数科〉

<p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none">・10までのたし算・ひき算の計算問題はブロックや指を使わずに解くことができているが、文章問題になると、問われていることやヒントの言葉が見付けられずに手が止まってしまう。・文章問題で、二つの答えを書く問題でも、何を書けばよいのか分からなくなってしまう場面がある。	
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和4年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none">・令和4年度は未就学児のため、記載なし。 <p>(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none">・具体物を活用したり、ヒントとなる大切な言葉を見付けられるようにしたりしている。・既習事項を思い出させて、新しい学習につながっていることを理解させる。	
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <p><方策></p> <ul style="list-style-type: none">① 文章から図にしたり、ヒントとなる言葉に印を付いたりする。② タブレットを活用して繰り返し復習を行い、学習の定着を図る。	<p><検証方法></p> <ul style="list-style-type: none">① 2学期末の学期末テストで、自分で問題文章の問われていることを理解し、問いに合った式や答えが書くことができているか。② 2学期末の期末テストや、豆テストでの正答率
<p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p><成果></p> <ul style="list-style-type: none">・文章問題に取り組む際に、繰り返しヒントの言葉を探すように声を掛けたことで、自分の力で問題に取り組めるようになった。・タブレットを活用して復習を行ったことで、既習内容も概ね定着した。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none">・急いで問題に取り組んだり、見直しを丁寧に行っていないかたりする姿が見られることがあった。	<p>5. 令和7年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none">・文章問題に取り組む際に、文章を読み上げたり、図に描いたりすると理解ができるが多かった。問われていることについて、自分でヒントの言葉を見つけたり、図を書けるようになったりする。
<p>6. 令和7年度(次学年)末に期待する児童の姿</p> <p>何を問われているのか想像しながら考えることができる児童</p>	

【別紙2】

〈授業改善推進プラン 令和6年度第1学年 生活科〉

<p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none">・生き物の観察において、観察したことを記録することに抵抗感をもつ児童が多い。観察した事柄を自分の言葉で記録する力を養うことにおいて、改善が図られるとよいと考えられる。	
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和4年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none">・令和4年度は未就学児のため、記載なし。 <p>(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none">・「大きさ」「形」「におい」「触り心地」など、具体的観察の視点から児童に問いかけ、児童が問いかけに答えた言葉をそのまま観察カードに書くよう声掛けをすることで、観察した事柄を自分の言葉で書けるようにする。・写真や動画を撮影することで、その場で書けなくても、後から児童が自分のペースで考えながら書くことができるようにする。	
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <p><方策></p> <p>①観察カード作成時における、指導の改善</p>	<p><検証方法></p> <p>①作成した観察カードの評価</p>
<p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p><成果></p> <ul style="list-style-type: none">・具体的に観察の視点を与えたことで、徐々に自分の言葉で見付けたことを記録できるようになった。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none">・事実と感想を分けて書くことが難しい。	<p>5. 令和7年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none">・事実と感想を分けて書くことができるようになる。
<p>6. 令和7年度(次学年)末に期待する児童の姿</p> <p>事実と感想を分けて記録をすることができる児童</p>	

【別紙2】

〈授業改善推進プラン 令和6年度第1学年 音楽科〉

<p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none">・どの児童も、意欲的に学習に取り組んでいる。・歌唱の際は体を大きく動かしながら歌い、リズムや曲想を感じ取ることができる。・「学習のめあて」に対するイメージをすることが難しく、楽しむことに終始しようとする言動がみられることがある。	
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和4年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none">・令和4年度は未就学児のため、記載なし。 <p>(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none">・帯活動として、リズムに合わせて楽器を自由に触れる時間を設定し、楽器の扱い方や音の出し方、鳴り方を体験的に理解できるようにする。・歌唱や器楽の演奏は、範唱や範奏を何度も繰り返し、自然と覚えられるようにする。・児童の興味関心に合わせてレパートリーを決定し、蓄積していく「うたのほん」を作り、意欲的に学習に取り組めるようにする。・「学習のめあて」は絵図を用いて可視化したり、動作化したり、単元時間分を常時掲載したりすることで、学習の見通しをもてるようにする。	
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <p><方策></p> <ul style="list-style-type: none">①「学習のめあて」の提示方法を工夫する。②個別指導を通して、児童の疑問点を解消する。	<p><検証方法></p> <ul style="list-style-type: none">①②年2回実施される授業評価アンケートの実施内容を分析
<p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p><成果></p> <ul style="list-style-type: none">・授業評価アンケートでは、全児童が全項目で肯定的な評価を付けていた。特に個別指導の徹底により、児童の思考力や表現力が大きく成長した。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none">・学習への見通しをもち、計画的に取り組むこと。	<p>5. 令和7年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none">・学習を楽しみながら取り組むことで、学習内容の確実な定着が期待できる。・単元ごとに、学習に対して見通しをもって取り組むことができるようにする。
<p>6. 令和7年度(次学年)末に期待する児童の姿</p> <p>学習への見通しをもち、自ら計画したり工夫したりことができる児童</p>	

【別紙2】

〈授業改善推進プラン 令和6年度第1学年 図画工作科〉

1. 『わかる』から『できる』を体感する授業を実現する上で解決すべき課題

- ・全員図工が大好きで、図工の授業に意欲的に参加している。しかし、紙を破いて偶然できた形から発想を広げて自分の表現につなげる題材など抽象的な表現の題材では、ねらいを理解して活動できた児童が少なかった。

2. 課題改善に向けた取組状況

(1) 令和4年度授業改善推進プラン記載内容

- ・令和4年度は未就学児のため、記載なし。

(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業を実現するための工夫等

- ・本時のねらいを明確にしてから、作業に取り組ませている。
- ・自由な表現や造形遊びを多く取り入れ、自由な表現を称賛して自信をもたせる機会を多く設けている。また、教室だけでなく、廊下や中庭、校庭などの母島小中学校の環境を活かすことで、創造的につくったり表したりできるようにしている。
- ・材料を十分に用意することで、創造力を働かせてつくったり表したりできるようにする。

3. 課題の改善に向けた方策と検証方法

<方策>

- ①本時のねらいに沿って活動できたか自分で振り返る時間を作る。
- ②自由な表現への自信を高められるような活動や評価の工夫をする。

<検証方法>

- ①ワークシートまたはタブレットでの振り返りの記述
- ②2学期末までには、自分の表現に自信をもち、自由な表現を楽しめるようになったか。

4. 検証結果(成果と課題)

<成果>

- ・タブレットを活用して振り返りを行ったことで、本時のねらいを意識して活動に取り組めるようになった。
- ・児童の活動の様子や振り返りに対して、教師側からコメントを書いていったことで、自分の表現の自信を高めることができていた。

<課題>

- ・クレパスや絵の具で紙からはみ出さずに丁寧に塗ることができているが、はさみで紙を切ることやのりの使い方の理解が不十分である。

5. 令和7年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項

- ・引き続きクレパスや絵の具で丁寧に塗ることを続け、はさみやのりの使い方をしっかり身に付ける。

6. 令和7年度(次学年)末に期待する児童の姿

はさみやのりを正しく安全に使い、よりよい作品をつくらうとする児童

【別紙2】

〈授業改善推進プラン 令和6年度第1学年 体育科〉

1. 『わかる』から『できる』を体感する授業を実現する上で解決すべき課題

- ・ゲーム遊びなどで、複数のチームやグループを作ることが難しく、多様な活動や作戦、考えが出にくいこと。
- ・体力の個人差が大きい。

2. 課題改善に向けた取組状況

(1) 令和4年度授業改善推進プラン記載内容

- ・令和4年度は未就学児のため、記載なし。

(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業を実現するための工夫等

- ・2年生と合同の体育としてできるだけ人数を増やしている。
- ・グループでの運動の機会をゲーム遊びだけでなく、器械運動系の遊びや、体づくり系の遊びでも取り入れ、チームでの取り組みや、協働学習の機会をできるだけ増やしている。
- ・全員ができたことを実感できるようにスモールステップで指導している。

3. 課題の改善に向けた方策と検証方法

<方策>

- ①様々な単元、種目でチーム学習や協働学習を取り入れ、多様な考え方、取り組み方に触れられるようにしている。
- ②少しずつ活動量を増やしていき、体力向上を目指す。

<検証方法>

- ①3学期のボール蹴り遊びでは、1学年児童からも積極的に作戦を出し、話し合いながら取り組めるようになったか。
- ②来年度の体力テストの結果

4. 検証結果(成果と課題)

<成果>

- ・友達の動きを見て、良いところを取り入れながら運動することができていた。
- ・始めはできなかったことも、何度も練習してできるようになった。

<課題>

- ・能力差があったり、学年によって同じようにはできなかったりすることがあった。

5. 令和7年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項

- ・個々のレベルに合った様々な場の設定を行う。

6. 令和7年度(次学年)末に期待する児童の姿

友達と仲良く楽しんで活動して、自分の運動能力を伸ばす児童

【別紙2】

〈授業改善推進プラン 令和6年度第2学年 国語科〉

<p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none">感想や自分の意見を書く場合に、何となく文章化できるものの、経験の浅さや語彙力の低さから適切な文章を書くことが難しい。日常的に文章を書くことや、様々な言葉に触れ語彙力を高める必要がある。意見を述べるときや発表をするときに、自信の無さや恥ずかしさが先行し、思い切った発表がなかなかできない。	
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和4年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none">令和4年度は未就学児のため、記載なし。 <p>(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none">授業中にノートを使う習慣を付け、気持ちや感想などを書く練習をしている。朝読書の時間、図書時間を設け、読書により語彙力や文章力を高めるよう指導している。朝の会、帰りの会で、楽しかったことや嬉しかったことなどの発表をし、児童同士の相互発表や意見交換の場としている。	
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <p><方策></p> <ul style="list-style-type: none">①朝の会、帰りの会で日直がスピーチをし、感想や質問を言い合い、伝え合い活動を行う。②1日1回は文章を書く時間を設け、全員が発表を行う。	<p><検証方法></p> <ul style="list-style-type: none">①内容が適切であり、主語や述語の使い方が合っているか。②句読点の使い方に気を付け、文章の構成がきちんとできているか。
<p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p><成果></p> <ul style="list-style-type: none">毎日のスピーチや発表により、自分の意見や感想などをスムーズに言えるようになってきた。お互いの意見を聞いたり、質問したりする習慣が付いてきた。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none">自分で話題を考えることに苦手意識をもっている。	<p>5. 令和7年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none">想像力に乏しいことが見受けられるため、想像力を膨らませる物語を読んだり、語彙力を身に付けたりする指導を行う。自分で創作できる力を付けていく。
<p>6. 令和7年度(次学年)末に期待する児童の姿</p> <p>自ら考え、思いや考えを表現できる児童</p>	

〈授業改善推進プラン 令和6年度第2学年 算数科〉

<p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計算の繰り上がりや繰り下がりの概念が定着しておらず，具体物や指を使って視覚的に数を移動して考える必要のある児童がいる。また，数字だけ処理をしようとし，計算ミスへとつながることがある。 ・文章問題において，書いてある文章を理解することができるが，物事の順序を正確に理解したり，事実を想像して計算に結び付けたりすることが難しい。 	
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和4年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和4年度は未就学児のため，記載なし。 <p>(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・問題文，式の本質を考え，学習している内容の理解にじっくりと取り組んでいく。 ・算数の学習と日常生活を結び付け，日頃から算数で学んだ知識や経験を活かせる場面を提示していく。 ・ドリルやプリントなどで反復練習を行い，学習内容の定着に努める。 	
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <p>＜方策＞</p> <p>①教科書の例題を基に，日常的に算数を用いて解決できる方法を探ったり，問題と式の間を関係を考える場を設けたりして，算数を考える経験を高める。</p> <p>②ベーシックタイムや空き時間を利用し，デジタルドリルで自学習を進める。</p>	<p>＜検証方法＞</p> <p>①算数の言葉を用いて説明したり，日常の中での算数を活用したりできているか。</p> <p>②デジタルドリルを自分で進め，反復学習ができているか。</p>
<p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p>＜成果＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・算数の授業以外でも数や計算を用いたり，何かをはかたりする場面があった。 ・計算スキルやテストが早く終わると，自分でデジタルドリルに取り組めるようになった。 <p>＜課題＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一度の計算で終わらせ，見直しをしないで計算ミスすることが多い。 ・問題文をじっくりと読んで考えていない。 	<p>5. 令和7年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・何を問われて，何を答えるのか，問題の意図をしっかりと読み取ることができるようにする。 ・見直しを必ずするように指導する。
<p>6. 令和7年度(次学年)末に期待する児童の姿</p> <p>問題の意図を理解し，適切に答えることができる児童</p>	

【別紙2】

〈授業改善推進プラン 令和6年度第2学年 生活科〉

<p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none">・観察した様子をカードに書く際に、文章として書くことに苦手意識をもっている。・表現力、語彙力の低さから、自分の言葉で何と云えばよいか、書けばよいか迷ってしまい、先に進めない状況がある。・早く終わらせることに固執し、丁寧さに欠けたり、作品の完成形を見出せずに終わりにしてしまったりする児童がいる。	
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和4年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none">・令和4年度は未就学児のため、記載なし。 <p>(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none">・観察に行く前に、観察の視点を具体的に説明するようにしている。(大きさ、形、におい、触った感じなど。)・使える言葉話し合ったり、似た言葉に言い換えたりすることで、語彙を増やしていく。・作品の完成例を提示し、工夫の余地や進め方について助言する。	
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <p><方策></p> <ul style="list-style-type: none">①観察カード等のワークシートは、記述がし易いようにヒントを明記し、事前に説明を十分に行う。②観察の視点や使える言葉を黒板に提示し、観察時や意見発表の場で使えるようにしていく。	<p><検証方法></p> <ul style="list-style-type: none">①適切な言葉を用いてワークシート等に記述ができているか。②発表の場で、自分で考えた言葉を使って意見や感想を述べることができるか。
<p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p><成果></p> <ul style="list-style-type: none">・観察の視点を持ち、自分でワークシート等に記述できるようになってきた。・友達の意見や感想を聞き、自分の考えに取り入れて使ったり、別の言葉に言い換えたりすることができるようになってきた。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none">・語彙力が少ないため、繰り返し同じ言葉を使うことがある。	<p>5. 令和7年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none">・次学年での教科はなし。
<p>6. 令和7年度(次学年)末に期待する児童の姿</p> <p>語彙力を高め、適切な言葉を使って表現できる児童</p>	

〈授業改善推進プラン 令和6年度第2学年 音楽科〉

<p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業』を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習に対して、意欲的に取り組んでいる。 ・音やリズムに対する感覚が豊かで、歌や楽器の習得が早い。 ・学習が楽しくなってくると、めあてから離れて思い思いの活動を始めてしまうことがある。 			
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和4年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和4年度未就学のため、記載なし。 <p>(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業』を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・帯活動として、リズムに合わせて楽器を自由に触れる時間を設定し、楽器の扱い方や音の出し方、鳴り方を体験的に理解できるようにする。 ・歌唱や器楽の演奏は、範唱や範奏を何度も繰り返し、自然と覚えられるようにする。 ・児童の興味関心に合わせてレパートリーを決定し、蓄積していく「歌の本」を作り、意欲的に学習に取り組めるようにする。 ・可視化した「学習のめあて」を提示し、活動中も内容を繰り返し確認したり、めあてに沿った声かけや価値付けをしたりする。 			
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p><方策></p> <p>①動画等の撮影，視聴を通して，自分たちの演奏を客観的に見られるようにする。</p> <p>②「学習のめあて」に対する指導を工夫する。</p> </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p><検証方法></p> <p>①年2回実施される授業評価アンケートの実施内容を分析する。</p> <p>②各授業における発言や振り返りの内容を分析する。</p> </td> </tr> </table>		<p><方策></p> <p>①動画等の撮影，視聴を通して，自分たちの演奏を客観的に見られるようにする。</p> <p>②「学習のめあて」に対する指導を工夫する。</p>	<p><検証方法></p> <p>①年2回実施される授業評価アンケートの実施内容を分析する。</p> <p>②各授業における発言や振り返りの内容を分析する。</p>
<p><方策></p> <p>①動画等の撮影，視聴を通して，自分たちの演奏を客観的に見られるようにする。</p> <p>②「学習のめあて」に対する指導を工夫する。</p>	<p><検証方法></p> <p>①年2回実施される授業評価アンケートの実施内容を分析する。</p> <p>②各授業における発言や振り返りの内容を分析する。</p>		
<p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p><成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「学習のめあて」を理解し、授業ごとに見通しをもって学習に臨むことができた。特に、それぞれの授業で身に付けたい内容を、自分たちでフォーカスすることができるようになった。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・特になし。 	<p>5. 令和7年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・楽しみながら学習に取り組むことで、学習内容のより確実な定着が期待できる。 ・学習への取組の切り替えにやや時間がかかってしまうことがあるが、十分な時間を確保したり、素早く切り替えられる声かけをしたりするなどの工夫があれば、しっかりと学習に臨むことができる。 		
<p>6. 令和7年度(次学年)末に期待する児童の姿</p> <p>自分の表したい音楽表現を明確にイメージし、様々な工夫をしながら取り組むことができる児童</p>			

【別紙2】

〈授業改善推進プラン 令和6年度第2学年 図画工作科〉

<p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none">・ 作品作りにおいて、時間短縮や面倒臭さが優先され、「これで完成でいい」と丁寧さに欠けたり、工夫をして改善しようしなかったりすることがある。・ 経験の乏しさや想像力の低さから、既存のものに固執したり、新しいものを生み出す発想をしようしなかったりする児童が多い。	
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和4年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none">・ 令和4年度は未就学児のため、記載なし。 <p>(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none">・ 作品例を提示したり、工夫の仕方などを話し合ったりし、作品作りを豊かにするよう指導する。・ 作品作りの中でよかった点を学級で共有したり称賛したりすることで、作品を工夫して改善する余地について理解を深めていく。	
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <p><方策></p> <ul style="list-style-type: none">①教科書の作品例や作品カードを提示し、作品のよい点や工夫できる点について話し合う。②作品作りにおいて、作成過程で声掛けをし、個に応じた助言や補助を行う。	<p><検証方法></p> <ul style="list-style-type: none">①本時で話し合ったことが、作品作りに活かされているか。②できあがった作品が、本人の理想としている物となっているか。
<p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p><成果></p> <ul style="list-style-type: none">・ 友達にアドバイスやヒントをあげたり、聞いたりする活動が自然にできていた。・ 友達同士での意見交換が作品作りの工夫につながり、活かされていた。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none">・ 友達に頼ってしまい、自分の考えが薄れてしまうことがある。	<p>5. 令和7年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none">・ 使う道具類が増えていくため、的確に使えるように導入指導をしっかりと行う。・ 一つ一つの作業を丁寧に行う。
<p>6. 令和7年度(次学年)末に期待する児童の姿</p> <p>自分の思いを形や絵に表現できる児童</p>	

【別紙2】

〈授業改善推進プラン 令和6年度第2学年 体育科〉

<p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none">・やったことが無い運動や知らないことにチャレンジすることを恐れ、やりたくない、できないと諦めてしまうことがある。・少人数であるがため、多彩なグループを作ったり、意見を出したりすることが困難である。	
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和4年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none">・令和4年度は未就学児のため、記載なし。 <p>(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none">・スモールステップで達成感を味わせる活動をしていく。・数多くの遊びを経験させ、自分達で工夫していくことやルールの改善につなげていく。・活動の経験を振り返り、よかった点や改善点を話し合う場を設ける。	
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <p><成果></p> <ul style="list-style-type: none">①同じ系統の遊びから、遊び方の工夫や改善点を話し合い、新しい活動へと結び付けていく。②授業の最後に、よかった点や改善点について意見交換をし、技術力の向上につなげる。	<p><検証方法></p> <ul style="list-style-type: none">①自分達で意見を出して、遊びや活動を工夫して行うことができたか。②運動や活動をする際に、自分の技術を高めようと意識したり努力したりすることができたか。
<p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p><成果></p> <ul style="list-style-type: none">・どんな運動遊びにもチャレンジし、やり遂げようと頑張ることができていた。・友達と協力したり、競い合ったりする中で、運動の質が高まっていた。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none">・人数的なことや能力的なことで、運動の種類が制限されることもあった。	<p>5. 令和7年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none">・チャレンジ精神は旺盛なので、できることを増やし、様々な技能を高めていきたい。
<p>6. 令和7年度(次学年)末に期待する児童の姿</p> <p>最後まであきらめずに挑戦し、自らの能力を高めていける児童</p>	

【別紙2】

〈授業改善推進プラン 令和6年度第3学年 国語科〉

<p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和6年度学力調査では、「話し手の話に関心を持ち、質問する。(6人中3人正答)」「物語分を読んで感じたことを共有する。(6人中2人正答)」「説明文で事柄の順序などを考えながら、内容の大体をとらえている。(6人中3人正答)」「文章を書く。(4人無回答, 1人のみ正答)」に課題が見られた。 自分の考えを言葉にまとめることや表現することに課題がある。 自分の考えを伝えたりまとめたりすることが苦手で、語彙力・表現力に課題がある。(読書量の少なさや考える力の弱さにも課題がある。) 			
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和4年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ひらがなが未定着の児童には、カルタ遊びやタブレットを活用した文字ゲーム等を通して、ひらがな理解につながるような個別指導を行っている。 簡単な絵本の読み聞かせを適宜行い、物語の世界を楽しんだり、友達と一緒に登場人物の描写から情景を想像したりする機会を多く設けている。 <p>(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none"> 毎回日直の時にはスピーチをする。聞く側は、全員が質問や感想を伝える取組を行っている。 文章を書いたりスピーチをしたりする際には、構成メモを作ったり文章を組み立てて書いたり話したりするように指導している。 漢字ミニテストをしたり、漢字ノートの宿題で言葉や文章づくりをして使い方を覚えたりするなどして、定着を図っている。また、辞書引きを積極的に行うように指導している。 			
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>＜方策＞</p> <p>①毎朝の日直のスピーチに対し、全員が質問や感想を伝える時間を設定する。また、構成メモを作り、文章を組み立てることを指導する。</p> <p>②漢字ノートを自分でまとめることで、漢字の使い方を身に付ける。</p> </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>＜検証方法＞</p> <p>①話し手の話に合った質問や感想が言えているかを確認する。自分の考えをまとめる手段として、あらかじめ準備することを習慣化させる。</p> <p>②使い方が分からないときや、間違えたときには直しをする、また辞書引きをして自分で調べることで定着を図る。</p> </td> </tr> </table>		<p>＜方策＞</p> <p>①毎朝の日直のスピーチに対し、全員が質問や感想を伝える時間を設定する。また、構成メモを作り、文章を組み立てることを指導する。</p> <p>②漢字ノートを自分でまとめることで、漢字の使い方を身に付ける。</p>	<p>＜検証方法＞</p> <p>①話し手の話に合った質問や感想が言えているかを確認する。自分の考えをまとめる手段として、あらかじめ準備することを習慣化させる。</p> <p>②使い方が分からないときや、間違えたときには直しをする、また辞書引きをして自分で調べることで定着を図る。</p>
<p>＜方策＞</p> <p>①毎朝の日直のスピーチに対し、全員が質問や感想を伝える時間を設定する。また、構成メモを作り、文章を組み立てることを指導する。</p> <p>②漢字ノートを自分でまとめることで、漢字の使い方を身に付ける。</p>	<p>＜検証方法＞</p> <p>①話し手の話に合った質問や感想が言えているかを確認する。自分の考えをまとめる手段として、あらかじめ準備することを習慣化させる。</p> <p>②使い方が分からないときや、間違えたときには直しをする、また辞書引きをして自分で調べることで定着を図る。</p>		
<p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p>＜成果＞</p> <p>①文章の組み立てを理解し、話すことの内容をまとめようとする姿勢ができた。</p> <p>②自分で調べて、学ぶ習慣を身に付けることができた。</p> <p>＜課題＞</p> <p>①自分の考えをもつことや、表現することへの苦手意識が強く、深めたり広げたりできない。</p>	<p>5. 令和7年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> 話型や質問型などの例示、個別での支援をして自分の考えをまとめたり伝えたりすることができるようにする。 疑問をもって、自分で調べて考えようとするようにさせる。 		
<p>6. 令和7年度(次学年)末に期待する児童の姿</p> <p>問われていることを理解し自分の考えをもって友達に伝え、友達の意見も聞いて考えを広げることができる。</p>			

【別紙2】

〈授業改善推進プラン 令和6年度第3学年 社会科〉

<p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none">・令和6年度の学力調査にて、社会科の調査は実施なし。・自分たちで課題を見付けていくことが難しい。・写真や地図，グラフなどを読み取るのが苦手。・調べたことをまとめる力が弱い。言語・文章化，表現力に課題がある。	
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和4年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none">・該当項目なし。 <p>(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none">・身近なことを題材にして，関心と親しみをもてるようにしている。・インターネットなども活用しながら，進めていく。・	
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <p><方策></p> <ul style="list-style-type: none">①身近な事に置き換えたり，体験できることを取り入れたりして，考えを広げられるようにする。②インターネットの資料や動画を活用し，地域的に難しいテーマの学習内容でも理解が深まるようにする。	<p><検証方法></p> <ul style="list-style-type: none">①「知りたい・見たい・聞きたい」自分なりに課題を見付けて，調べたことをまとめることができるか確認する。②テストなど「知識・理解」の項目で，8割以上とれるかを確認する。
<p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p><成果></p> <ul style="list-style-type: none">①身近な出来事を考えたり見学したりしたことで，興味をもって取り組むことができた。②資料や動画を活用して，地域的に難しい学習内容を理解することができた。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none">①分かったことや学習したことを自分の言葉でまとめることが苦手。	<p>5. 令和7年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none">・資料やグラフの適切な読み取りができるようにする。・自分なりに課題を見付けて，調べたことや分かったことを分かりやすくまとめることができるようにする。
<p>6. 令和7年度(次学年)末に期待する児童の姿</p> <p>学んだことを自分ごとととらえ，社会の一員として自分ができることを考えて行動できる。</p>	

〈授業改善推進プラン 令和6年度第3学年 算数科〉

<p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和6年度学力調査では、「文章問題（求補の場面）を、2桁－2桁＝2桁の減法を適用して解く」「加法の結合法則を用いた式の表し方の理解」「長さの単位の関係を理解し、大小を判断する」（6人中3人正答）「はこの形：直方体を作るときに必要な面の形と数の理解。直方体の辺の長さや数を使って、問題を解く」（6人中2人正答）に課題がある。 文章の読み取りが苦手な、場面を正しく理解して立式することに課題がある。 	
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和4年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none"> 教室に数の表を常掲し、学習の中で指し示しながら繰り返し数を唱えさせている。 抽象と具体を行き来しながらの学習を繰り返し、具体物での理解を抽象的な表現とマッチングできるようにし、抽象的な思考や表現に慣れさせている。 <p>(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none"> 問題の場面を、できるだけ絵や図など可視化して示している。 問題文で大事な数字や言葉に印を付けさせている。 自分の考えを言葉や図、式などで書き表したり、説明したりする機会を設けている。 	
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <p>＜方策＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ①問題場面を視覚的に示したり、具体物を操作したりする。 ②自分の考えを書き表したり、説明したりする場を設ける。リレー方式で前の人に続いてや、言い換えなどをさせる。 	<p>＜検証方法＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ①授業中や家庭学習などで、文章問題において正しく立式できているかを見る。 ②場を多く設け、筋道を立てて説明できているかを確認する。
<p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p>＜成果＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ①大切な言葉や数字を見つけて、図に表すことで視覚化し立式・解答する力が高まった。 ②習ったことを使って、説明する力が高まった。 <p>＜課題＞</p> <ul style="list-style-type: none"> 文章をよく読まずに、問われていることを理解することに課題がある。 個人差があるが、表現（言葉）が出てこないことがある。 	<p>5. 令和7年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> 文章を理解して一人で図を描いたり、言葉で説明したりすることができるようにする。
<p>6. 令和7年度(次学年)末に期待する児童の姿</p> <p>問題を正しく理解して、習ったことを使って問題解決をする。</p>	

〈授業改善推進プラン 令和6年度第3学年 理科〉

<p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当該教科の学力調査は実施していない。 ・今年度から理科の学習を始めたばかりなので、科学的な思考や表現力がまだ身に付いていない児童が多い。観察や実験等の活動には興味・関心が高いが、結果から考察したり理由を考えたりしようとする意識が低い。 	
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和4年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・該当項目なし <p>(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎的基本的な知識や技能を確実に身に付けさせ、形成的な評価を行うために、毎時間や各単元の最後に振り返りを行い、復習を徹底させる。 ・生活経験や既習内容を生かし自分の考えを言葉や図、資料等を使って表現させることによって、論理的に思考することを習慣化させ、表現力を高める。 	
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <p><方策></p> <p>①基礎的基本的な知識や技能を確実に身に付けさせるために、各単元の最後に振り返りや復習を徹底させる。</p> <p>②生活経験や既習内容を生かし自分の考えを表現させることによって、論理的に思考することを習慣化させる。</p>	<p><検証方法></p> <p>①単元テストにより、知識・技能分野の評価がB基準（正答率70%）以上になったか。</p> <p>②単元テストにより、思考・判断・表現分野の評価がB基準（正答率70%）以上になったか。</p>
<p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p><成果></p> <p>①基礎的基本的な知識や技能を身に付けることができた。</p> <p>②自分の考えを短い文で表現できるようになり、思考・判断・表現の力が高まった。</p> <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・テストでは、問われている内容や答え方を捉えるのが難しい児童がおり、個別の支援が必要である。 ・自分の考えを表現する場面で、論理的でもう少し長い文が書けるように指導したい。 	<p>5. 令和7年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎的基本的な学習内容の一層の定着を図る。 ・適切な用語等を用いて、自分の考えを表現できるように段階的に指導していく。
<p>6. 令和7年度(次学年)末に期待する児童の姿</p> <p>身の回りの自然科学的な事象に興味・関心をもち、主体的に解決し、考えを表現することができる。</p>	

〈授業改善推進プラン 令和6年度第3学年 音楽科〉

1. 『わかる』から『できる』を体感する授業を実現する上で解決すべき課題

歌唱領域は元気よく、器楽領域では楽器を持ち帰り自主練習に励むなど音楽に対して意欲をもって取り組む姿が見られる。それぞれで得意な分野があり、「広く浅く」ではなく「狭く深く」の視点で物事を追求する児童たちであるが、苦手な分野に関してはネガティブな発言が多く、良いイメージが頭の中で膨らまないことがある。それぞれ得意分野をもっているので教え合い活動の中で知識や技能を向上させる協働的な場面の活用が課題である。

また、昨年度からの課題として挙がっている歌唱領域における声の大きさや曲想に合わせた歌い方については引き続き注視していかなければならない事項である。

2. 課題改善に向けた取組状況

(1) 令和4年度授業改善推進プラン記載内容

- ・繰り返すだけでなく、児童が興味・関心をもてる授業展開を考える。

→既習事項を繰り返しながら基礎的な知識や技能の定着を図り、さらに興味・関心をもてるような授業展開を行いながら、新たな知識や技能を習得しながら音楽を楽しむ力を育んだ。

(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業を実現するための工夫等

- ・技能については明確なゴール地点を提示し、それに向かって個人練習を重ねながら目標を達成できるように個別指導を実施している。
- ・さらに自己肯定感を高めるため、成功体験を重ねられる実技発表の場面を多く設定している。

3. 課題の改善に向けた方策と検証方法

<方策>

- ①協働的な活動の設定
- ②歌唱領域において客観的に自分の歌唱を認識し、曲想に合った歌い方や他者と合わせる力を育む場面の設定
- ③学期末アンケートの実施

<検証方法>

- ①小グループに分かれ、リーダーから教えてもらったり、リーダーとなって教えたりする場面を多く設ける。
- ②自分が歌っている姿を映像や音声で確認し、うまく歌えてるときにどのように身体を使い発声をしているのかを確認する場面を意図的に設定する。
- ③学期末アンケートの分析

4. 検証結果(成果と課題)

<成果>

- ・技能については、ペア活動として2回に1度は仲間と一緒に発表する時間をとり、他者と合わせながら個別の目標を達成できる場面を設定することができた。

<課題>

- ・課題をクリアしているのに、消極的な発言をしまう児童もいる。

5. 令和7年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項

- ・歌唱と器楽共に、意欲が高く技能も平均よりできる生徒が多い。しかし、消極的な発言をしまう児童もいるため、自己肯定感を高める場面の設定や言葉かけを継続していく必要がある。

6. 令和7年度(次学年)末に期待する児童の姿

何事にも前向きに、ポジティブな発言が多くなるような児童

〈授業改善推進プラン 令和6年度第3学年 図画工作科〉

<p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・絵や立体に表す活動や造形遊びを楽しむ姿が見られるが、鑑賞活動や活動の振り返りなど、自分の考えをまとめたり発表したり、言語化することに抵抗がある児童が半数近くいる。 ・イメージしたことに技能が追い付かない時に、自ら試行錯誤しながら挑戦する場面が少なく、すぐに答えを教わろうとしたり、代わりにやってもらおうとしたりすることがあり、主体的に分かろうとする、できるようになろうとする姿勢をつくるための授業づくりが必要である。 	
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和4年度授業改善推進プラン記載内容</p> <p>【課題】対象の全体を捉え、表現することが難しく、手足のつながりがおかしかったり衣服が透けていたりする段階の児童や、描画技術が稚拙かつ雑で形の中を塗りつぶすことが難しい児童がいる。言葉の説明や手本を見せるなどの指導では、なかなか本人の納得につながらない実態がある。</p> <p>【改善策】人物像を描くときは全身が見える鏡で自分の姿を映し、部分のつながりや衣服の見え方を確認して描かせる活動をしている。人物や動物などを描く時の、全体と部分が捉えられるような指導方法の工夫をする。</p> <p>【評価】授業を受ける際の基本のスタンスが定まっていないため、児童が題材の目標を理解したうえで自分のイメージや表現したいことを実現できるよう、導入段階を丁寧に進めていかなければならない。まずは図画工作科の活動の種類を知り、児童自身が題材ごとに取り組み方を変え、むやみなエネルギーの放出で終わらないような授業者側の組み立ての工夫が必要である。</p> <p>(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業の始めに授業の流れとめあてを示して確認することを徹底し、授業終わりの振り返りをワークシートに記入して自分の取り組みを思い出しながら、次回に向けてやるべきことや考えていることを言語化してまとめることを習慣化できるようにしている。 	
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <p>＜方策＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ①年間2回授業評価アンケートを実施する。 ②授業ごとの振り返りや題材ごとのまとめの活動を充実させる。 	<p>＜検証方法＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ①年間2回の授業評価アンケートの実施内容分析 ②振り返りワークシートのフィードバックを行い、自己評価を継続して比較する。
<p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p>＜成果＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・苦戦しながらも自分らしく主題を設定して作品づくりに取り組むことができた。 <p>＜課題＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の作りたいもののイメージを実現するために試行錯誤を繰り返す場面が少なく、すぐに答えを要求したり教員に手伝ってもらおうとしたり、自力解決に消極的なことが課題である。 	<p>5. 令和7年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感情が先行する児童が一部おり、児童同士のトラブルが起きる場面もあるため、危険を伴う用具を扱う題材は注意が必要である。 ・図工室内の規律を改めて確認し、題材ごとの注意事項の確認だけでなく、毎回の授業でも呼びかけていく。
<p>6. 令和7年度(次学年)末に期待する児童の姿</p> <p>用具や材料の扱いを正しく理解して技能を向上させることに主体的に取り組み、その力を活用して表現したいことを形にできる児童</p>	

【別紙2】

〈授業改善推進プラン 令和6年度第3学年 体育科〉

1. 『わかる』から『できる』を体感する授業を実現する上で解決すべき課題

- ・授業評価アンケートなどから、「体育科の授業が好きか」や「体育科の授業はわかりやすいか」の項目ではほぼ全員が肯定的な回答をしている。
- ・遊んだり動いたりすることは嫌いではないが、6人中3人はすすんで運動をすることが苦手である。
- ・運動能力に偏りがあり、走ることは得意だが、多様な動きや道具を使うことが苦手である。

2. 課題改善に向けた取組状況

(1) 令和4年度授業改善推進プラン記載内容

- ・2年生と合同の体育としてできるだけ人数を増やしている。
- ・グループでの運動の機会をゲームだけでなく、器械運動や、体づくり運動でも取り入れ、チームでの取組や、協働学習の機会をできるだけ増やしている。

(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業を実現するための工夫等

- ・技能のポイントを絵付で示し、自分に合ったものを選んだり挑戦したりできるようにする。
- ・楽しんでできるような場や方法を設け、スモールステップで達成感をもたせる。
- ・振り返りを書かせたり、友達の良いところを伝えたりして意欲を高める。

3. 課題の改善に向けた方策と検証方法

＜方策＞

- ①技能のポイントを可視化して、分かりやすく提示する。
- ②振り返りカードなどを活用する、友達同士でアドバイスし合うなどの場を作る。

＜検証方法＞

- ①毎回の動きを見取る。掲示物を見ているときにどんな考えをもっているかなど聞き取る。
- ②振り返りカードの見取り。活動中の見取り。

4. 検証結果(成果と課題)

＜成果＞

- ①めあてや技能ポイントを示すことで、何をするか理解して取り組むことができた。
- ②振り返りシートを書くことで、自分の振り返りができたり友達のよさを見付けたりすることができた。

＜課題＞

- ②振り返りでは、「楽しかった」ではなく「〇が△することによってできるようになった」など自分の言葉で具体的に書くことが難しい。

5. 令和7年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項

- ・能力の差もあるので、レベル別に課題などを設定するなどの工夫をする。
- ・みんなが協力して準備や片付け、ゲームに取り組めるようなルールやグループ分けを工夫する。

6. 令和7年度(次学年)末に期待する児童の姿

学習に意欲的に取り組み、技能・表現の力を着実に身に付けることができる。

【別紙2】

〈授業改善推進プラン 令和6年度第4学年 国語科〉

<p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none">・今年度の学力調査の学級平均正答率は65.6%（基礎71.8%，活用52.5%）と全国平均正答率より4.4%低いことが分かった。・特に「言葉の特徴や使い方に関する事項」「話すこと・聞くこと」において全国平均正答率を下回っている。また、「書くこと」についてはテスト時間内に最終問題の作文まで着手できず，無回答である児童や途中で終わってしまった児童がいるなどテストに慣れていない現状が見えてきた。	
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和4年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none">・伝える相手を意識した作文指導を行う。「誰に」「どのような目的で」書くのかを最初に確認し，相手意識をもって伝えることができる力を育むことをねらう。・「話すこと・聞くこと」に関する事項については未記載であった。 <p>(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none">・伝える相手を意識した作文指導に加えて，時間内に書くこと，既習の漢字は使うことを徹底する。・意見が思い付かない場合は，友達の意見を参考にして話すこと，書くことを積極的に指導している。	
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <p>＜方策＞</p> <ul style="list-style-type: none">①字数や時間の制限を設けた作文指導を行い，既習の漢字については意識的に使うよう声かけをしながら添削作業を行う。②友達の意見を聞き，賛成か反対かなど反応を必ずすることで，聞くことに対する必要感と発言力を養う。	<p>＜検証方法＞</p> <ul style="list-style-type: none">①学年末に学力テスト過去問題の作文を10分で取り組み，7割の正答率を取る。②毎朝のテーマスピーチで「話す」際の文章構成力と質問力を見る。
<p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p>＜成果＞</p> <ul style="list-style-type: none">①100字作文に取り組むことで，お題に対して自由に作文する力が身に付いた。②友達の意見に共感したり，別の考えがある際は付け足しをしたりすることができた。 <p>＜課題＞</p> <ul style="list-style-type: none">①100字作文に取り組む月間を設けた。既習の漢字を使うことについては課題が残る。また，記述内容に答えがある文章を書くことにも課題が残る。	<p>5. 令和7年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none">・物語文や説明文の教材で叙述をもとに作文をする際には，話型を補助資料として用意しておき必要な児童に配布できるようにする。・人前で話すことは得意なので，話す聞くの単元では話の内容に重点を置いて指導を行う。
<p>6. 令和7年度(次学年)末に期待する児童の姿</p> <ul style="list-style-type: none">・叙述をもとに筆者の考えと自分の考えを区別しながら作文することができる。・聞き手に伝わる内容か事前に話す内容を友達と読み合うことができる。	

【別紙2】

〈授業改善推進プラン 令和6年度第4学年 社会科〉

<p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none">・今年度の学力調査の学級平均正答率は61.5%（基礎62.0%，活用60.0%）と全国平均正答率を3.7%下回っている。・「地域や市の様子」「生産や販売」「安全を守る働き」の項目で全国平均正答率を下回っており，複数の資料の中から正解を見付ける力に課題がある。また，問題文が長いため，どこが質問されているのか分からなくなる様子が見られた。地図記号など基礎的な知識不足も課題である。	
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和4年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none">・令和2年度授業改善推進プラン策定なし。 <p>(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none">・社会科の用語を覚えるために，言葉と意味を関連付けて話をする。・何が聞かれているのか，問題を理解するために，キーワードを授業内で指定している。	
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <p><方策></p> <ul style="list-style-type: none">①文章や数値で書かれた資料で「何を示した資料か」を毎回考え，見出しを見る習慣を付ける。②「学びのキーワード」と称し，毎時間タブレットに社会科の言葉を記録していく。	<p><検証方法></p> <ul style="list-style-type: none">①単元テストの正答率や学力テストの結果②単元の最後にまとめのスライド，または新聞づくりを行い，キーワードが使えているかを見取る。
<p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p><成果></p> <ul style="list-style-type: none">①データがどの資料のものかを意識してスライドを作ることができた。②タブレットで毎時間スライドを作ることにより，授業内で出た重要な言葉に赤色を付けるなど目立たせる習慣が身に付いた。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none">②単元のまとめのスライドを作る際に，過去作ったスライドのどこに必要な情報が書いてあるかを見付けることに課題がある。	<p>5. 令和7年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none">・全ての単元を通してデータがどの資料から得たものなのかを常に意識して資料作りを行う。・単元のまとめスライドを作る際に，過去のスライドで作ったものを生かすよう声かけをする。
<p>6. 令和7年度(次学年)末に期待する児童の姿</p> <p>データがどの資料から得たものなのかを作成資料に明記することができる。</p>	

【別紙2】

〈授業改善推進プラン 令和6年度第4学年 算数科〉

<p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none">・今年度の学力調査の学級平均正答率は73.8%（基礎80.9%，活用55.6%）と全国平均正答率を1.7%上回った。しかし，学力の二極化が学級内での課題として挙げられる。・「わり算」「□を使った式」「長さ・重さ」「表とぼうグラフ」の問題において，学級内での正答率に差がある。	
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和4年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none">・タブレットで時計アプリを使用し，具対物を操作させることで，実感を伴いながら，時間や時刻への理解を深める。・数えたものに印を付けるなどして，重複や数え落としなどがいないかを確認することで，確実にグラフや表に表すことができる。 <p>(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none">・数直線での表現方法についてタブレットを操作して学び，実感を伴いながら，数の理解を深める。・筆算で使った数字に印を付けるなどして，重複や数え落としがいないか確認することで，ケアレスミスをなくそうと試みている。	
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <p><方策></p> <ul style="list-style-type: none">①公式を覚える前に，どうしてこの式になるのかをじっくり考え，説明する活動を増やす。②練習問題に取り組む時間を単元内で2時間以上取るようにする。	<p><検証方法></p> <ul style="list-style-type: none">①児童のノートに公式や計算が書かれているだけでなく，立式の手順もきちんと書かれている。②単元テストの正答率や学力テストの結果
<p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p><成果></p> <ul style="list-style-type: none">①式の中で数字が問題文のどのことを表しているのかを考え発表する活動を通して公式を導き出すことができた。②練習問題に取り組む時間を全単元で1時間と朝のベーシックタイムで取ることができた。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none">①授業内では友達の意見を聞くことができたが，テストなど一人で問題に取り組むと手が止まってしまうことが課題である。	<p>5. 令和7年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none">・「合同な三角形，四角形」「単位量当たりの大きさ」などできまりや公式を暗記するだけでなく，どうして公式が成り立つのかを授業内で説明する活動を取り入れる。・ベーシックタイムを活用して計算や単位換算など定期的に扱い復習をする。
<p>6. 令和7年度(次学年)末に期待する児童の姿</p> <ul style="list-style-type: none">・計算の仕方を覚えるだけでなく，友達に伝えることができる。・緊張感のある場面(テストなど)でも問題文を把握し解答することができる。	

〈授業改善推進プラン 令和6年度第4学年 理科〉

<p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和6年度の学力調査の結果は、校内平均正答率が53.3%で、全国平均の55.2%にやや届かない状況である。特に、問題の内容では「風やゴムのはたらき」(校内26.7% 全国44.8%),「音のせいしつ」(校内40.0% 全国58.9%)に、観点別では知識・技能(校内58.3% 全国63.0%)に課題が見られた。後半の問題の正答率が低く無解答が多いことから解答に時間がかかった児童が多かったと考えられる。顕著な個人差があり下位層を中心に基礎的基本的な知識や技能を確実に身に付けさせることが、今後の課題である。 			
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和4年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none"> 該当項目なし <p>(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none"> 基礎的基本的な知識や技能を確実に身に付けさせ、形成的な評価を行うために、毎時間や各単元の最後に振り返りを行い、復習を徹底させる。 生活経験や既習内容を生かし自分の考えを言葉や図、資料等を使って表現させることによって、論理的に思考することを習慣化させ、表現力を高める。 			
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>＜方策＞</p> <p>①基礎的基本的な知識や技能を確実に身に付けさせるために、各単元の最後に振り返りや復習を徹底させる。</p> <p>②生活経験や既習内容を生かし自分の考えを表現させることによって、論理的に思考することを習慣化させる。</p> </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>＜検証方法＞</p> <p>①単元テストにより、知識・技能分野の評価がB基準（正答率70%）以上になったか。</p> <p>②単元テストにより、思考・判断・表現分野の評価がB基準（正答率70%）以上になったか。</p> </td> </tr> </table>		<p>＜方策＞</p> <p>①基礎的基本的な知識や技能を確実に身に付けさせるために、各単元の最後に振り返りや復習を徹底させる。</p> <p>②生活経験や既習内容を生かし自分の考えを表現させることによって、論理的に思考することを習慣化させる。</p>	<p>＜検証方法＞</p> <p>①単元テストにより、知識・技能分野の評価がB基準（正答率70%）以上になったか。</p> <p>②単元テストにより、思考・判断・表現分野の評価がB基準（正答率70%）以上になったか。</p>
<p>＜方策＞</p> <p>①基礎的基本的な知識や技能を確実に身に付けさせるために、各単元の最後に振り返りや復習を徹底させる。</p> <p>②生活経験や既習内容を生かし自分の考えを表現させることによって、論理的に思考することを習慣化させる。</p>	<p>＜検証方法＞</p> <p>①単元テストにより、知識・技能分野の評価がB基準（正答率70%）以上になったか。</p> <p>②単元テストにより、思考・判断・表現分野の評価がB基準（正答率70%）以上になったか。</p>		
<p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p>＜成果＞</p> <p>①基礎的基本的な知識や技能を十分に身に付けることができた。</p> <p>②自分の考えを表現できるようになり、思考・判断・表現の力が高まった。</p> <p>＜課題＞</p> <ul style="list-style-type: none"> テストでは、設問の意味を正確に捉えるのが難しいこともあった。丁寧に取り組むよう声掛けをしていく。 自分の考えを表現することがやや苦手な児童もいるので、個別の支援も必要である。 	<p>5. 令和7年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> 基礎的基本的な学習内容の一層の定着を図る。 既習事項や適切な用語等を用いて、自分の考えをわかりやすく表現できるように継続して指導していく。 		
<p>6. 令和7年度(次学年)末に期待する児童の姿</p> <p>身の回りの自然科学的な事象に興味・関心をもち、主体的に解決し、考えを表現することができる。</p>			

〈授業改善推進プラン 令和6年度第4学年 音楽科〉

<p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題</p> <p>音楽に対する熱量に個人差はあるが、興味をもち、考えたことを行動に移し、主体的に活動できる。また、制限時間内で完結できなかったことに対しても、挑戦させてほしいと積極的に意欲を示し、改めて挑戦し、結果を出せる児童たちである。</p> <p>しかし、昨年度からの課題である「学習したことが分かっている」という内容については、質問に対する回答の内容や楽器練習の取り組みを見ている中で、理解度が満足できる域に達していないと感じる場面もある。</p>			
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和4年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童の疑問点をしっかりとすくい上げて理解を深めること。 <p>→教師との対話や協働的な活動の中で改善が見られた。</p> <p>(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・協働的な活動の中で「何かを得られる力」をもっている児童であるため、その強みを生かし、グループ活動を積極的に取り入れている。分からなくてもクラスメイトと一緒に考えている場面を設けることにより、ひらめくことが多々あったため今後も継続していく。 ・音符や休符を「タン」や「ウン」で表したカードを作成し、カードを手にとって言葉で表現したり、手で叩いたりして音の長さやリズム創作に生かしている。 ・音楽の見方・考え方を働かせる手助けになるよう、既習事項を活用した音楽神経衰弱を実施している。 			
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p><方策></p> <ul style="list-style-type: none"> ①協働活動の充実 ②既習事項定着のための常時活動 ③学期ごとに行うアンケート </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p><検証方法></p> <ul style="list-style-type: none"> ①ワークシートやデータの内容の分析 ②フォームを使用した平易なドリルなどの結果分析 ③アンケートの分析 </td> </tr> </table>		<p><方策></p> <ul style="list-style-type: none"> ①協働活動の充実 ②既習事項定着のための常時活動 ③学期ごとに行うアンケート 	<p><検証方法></p> <ul style="list-style-type: none"> ①ワークシートやデータの内容の分析 ②フォームを使用した平易なドリルなどの結果分析 ③アンケートの分析
<p><方策></p> <ul style="list-style-type: none"> ①協働活動の充実 ②既習事項定着のための常時活動 ③学期ごとに行うアンケート 	<p><検証方法></p> <ul style="list-style-type: none"> ①ワークシートやデータの内容の分析 ②フォームを使用した平易なドリルなどの結果分析 ③アンケートの分析 		
<p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p><成果></p> <p>常時活動の中で、音楽用語神経衰弱やリズムカードを使った取組を行った結果、既習事項を使用した、ワークシートの記述や発言をすることができるようになった。</p> <p><課題></p> <p>課題と思われるものはないが、高学年の取り組みに向けて、難易度を上げた課題に取り組む必要がある。</p>	<p>5. 令和7年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p> <p>意欲や技能が高く、個別指導をすると目標以上の成果があるため、教師が見通しをもった上で、さらに高度なこともできるよう指導していく必要がある。</p>		
<p>6. 令和7年度(次学年)末に期待する児童の姿</p> <p>自分なりに音楽に真剣に向き合い、自分の音楽をよりよくしていこうとする意欲をもち続ける児童</p>			

〈授業改善推進プラン 令和6年度第4学年 図画工作科〉

<p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動の取り掛かりや作業の速度、仕上げまでの過程の密度などにかかなり大きな個人差があり、与えられた時間に対して全体の見通しをもって活動することが難しい児童が半数以上である。 ・分野ごとに得意、不得意、好き、嫌いがわかれており、興味のもてない題材に対しては活動の質に波があるため、苦手意識のあることに取り組むときの意識の持ち方に対する声かけ、導入や授業の組み立ての工夫等が必要である。 	
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和4年度授業改善推進プラン記載内容</p> <p>【課題】児童の疑問点をしっかりとすくい上げて理解を深めることについて、改善が図られるとよいと考えられる。</p> <p>【改善策】個別指導での児童の疑問点の解消。</p> <p>【評価】表現したいことがなかなか見付けられなかったり、活動に興味をもてなかったりした時に、その状況を主体的に解決しようとする姿勢をつくりきれていないように感じられる。児童自身が知識や技能面でのサポートを必要としているのか、アイデアのヒントを求めているのかなど自分のつまずきや困り感を言語化して明らかにし、周囲に伝えてサポートを求めること。また、教師側はつまずきを予め考慮してヒントや補助ツールの準備をしておくなど、ただただ集中できない時間にしないための主体的な取組姿勢をつくっていきけるよう相互の努力が必要である。</p> <p>(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・導入で目標を確認して自分でつまずきそうなポイントを予想してみるよう声かけを行い、つまずいたらどうするかを一緒に確認している。サポートの準備を整えておきつつも主体的な課題解決を促す声かけを行う。授業終わりに振り返りワークシートに次回の自分への言葉を入力しておき、授業初めに見るよう促している。 	
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <p>＜方策＞</p> <p>①年間2回授業評価アンケートを実施する。</p> <p>②授業ごとの振り返りや題材ごとのまとめの活動を充実させる。</p>	<p>＜検証方法＞</p> <p>①年間2回の授業評価アンケートの実施内容分析</p> <p>②振り返りワークシートのフィードバックを行い、自己評価を継続して比較する。</p>
<p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p>＜成果＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・制作活動を楽しみながら、作品をさらに良くしたいという意志をもって、より工夫を凝らそうとする主体的な姿が見られた。 <p>＜課題＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・与えられている時間の中でどのような時間配分で取り組めばよいか意識できないことが多く、授業終わりの振り返りが疎かになりがちなのが課題である。 	<p>5. 令和7年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動を楽しみすぎるあまり、時間管理ができないことが多いため、制限時間の予告やタイマーの活用などをより丁寧に行う。
<p>6. 令和7年度(次学年)末に期待する児童の姿</p> <p>自らの取組を振り返り、次につなげられる児童</p>	

【別紙2】

〈授業改善推進プラン 令和6年度第4学年 体育科〉

<p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none">・新体力テストでは、男子は50m走と立ち幅跳び、女子は握力に課題が見られた。また、学級得点平均値は全国得点平均値を上回るが、個人差が大きいことにも留意する。・授業の観察から、運動課題への不安が強いと取り組むまでに時間がかかることもある。苦手な児童ほど試行回数が減り、成長速度が遅れてしまうことが課題である。	
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和4年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none">・運動中の動画を撮影し、自分の動く様子を視聴することで、児童が客観的にフォームを確認することができ、改善点を見付けられるようにする。・スモールステップで課題を提示することで、運動の特性に応じた楽しさを味わいながら、練習することができるようにする。 <p>(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none">・授業の後には今日の運動でできるようになったことや考えたことなどを振り返る活動をタブレットで行い、教師が的確なコメントをする。・視覚的な資料を用意し、技のレベルなどを提示することで児童が進んで運動に取り組める環境を作る。	
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <p><方策></p> <ul style="list-style-type: none">①タブレットでの振り返りの際、児童が動きの言語化をできるように一人一人に言葉かけをしていく。②視覚的な資料を用意し、児童一人一人が自分の課題に合った運動を選ぶ環境を提供する。	<p><検証方法></p> <ul style="list-style-type: none">①タブレットでの毎時間の振り返り内容。授業内の発言②授業内の発言。単元のまとめの振り返り内容
<p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p><成果></p> <ul style="list-style-type: none">①振り返りへのコメントや授業内での言葉かけを通して、動きのリズムや体の使い方を言語化することができた。②児童一人一人が一連の動作内で課題と感ずる部分を考え、練習の場を選んで運動に取り組むことができた。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none">①振り返りの内容に個人差がある。②自分に合った練習の場を選ぶことに苦勞する児童がいた。	<p>5. 令和7年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none">・全単元において児童の振り返りの内容に教師はコメントを返し、個別最適な振り返りができるように心がける。・全ての単元において多様な活動の場を子供たちと共に考えていく。
<p>6. 令和7年度(次学年)末に期待する児童の姿</p> <ul style="list-style-type: none">・自分の体の動きを言語化し、友達に伝えることができる。	

〈授業改善推進プラン 令和6年度第5学年 国語科〉

<p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度の学力調査の校内平均正答率は55.1%（基礎58.3%、活用47.9%）と目標値（64.4%）、全国平均正答率（64.9%）を下回っている。 ・「漢字を読む」の正答率94.4%に対し、「漢字を書く」の正答率は38.9%となっており、1人1台タブレット端末導入による文字を書く機会の減少が影響していることが考えられる。 ・「文章を書く」の正答率は29.2%で、令和5年度から若干改善されているものの、依然として、回答する際の時間配分や、指定された条件の作文を短時間で書く力を付けることが課題である。 	
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>（1）令和4年度授業改善推進プラン記載内容</p> <p>[課題]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習した事項を活用すること。 ・言葉の順序に沿って構成を考えながら書いたり、自分の思いや考えが明確になるように文章を書いたりすること。 <p>[課題改善に向けた方策]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習の振り返りや宿題で短文指導を行う。 ・話型を示した上で作文活動に取り組みさせる。 <p>（2）今年度実践している「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漢字の書き取りについては、毎日の小テスト・月毎のテスト・学期末テストを行い、定着を図っている。学期末のテストでは全問正解するまで再テストを行っている。また、普段から既習の漢字を使うように指導している。 ・物語の感想文や報告文、説明文の要旨など、文章を書く機会を多く設定している。また、国語科に限らず、調べたことを報告文や新聞にまとめる活動も取り入れている。既習漢字を使った条件作文や、授業の振り返りを書くなど、限られた時間で指定の条件に合わせた文章を書く機会も設定している。 	
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <p><方策></p> <ol style="list-style-type: none"> ①漢字の小テストやまとめテストを行い、間違えた漢字を練習させ、定着を図る。 ②物語の感想文や報告文、説明文の要旨など、文章を書く機会を多く設定する。 ③既習漢字を使った条件作文や、授業の振り返りを書くなど、限られた時間で指定の条件に合わせた文章を書く機会を多く設定する。 	<p><検証方法></p> <ol style="list-style-type: none"> ①学期に2回、漢字のまとめテストを行い、全員が90点以上取れているか確認する。 ②問われていることに正対しているか、また、筋道立てて自分の考えをまとめることができているかについて、文章の内容を確認する。 ③決められた時間の中で条件に合った文章を書ききることができているか確認する。
<p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p><成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・漢字のまとめテストでは、再テストを含めて全員が90点以上を取ることができた。 ・条件作文や授業の振り返りは、決められた時間の中で書くことができた。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・感想文や意見文の書き方、要旨のまとめ方について、本文のどこを参考にしたらよいか、どのような構成で文章を書いたらよいか学習したが、個人差が大きく、自分の考えを筋道立てて書くことが難しい児童がいる。 	<p>5. 令和7年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童一人一人の理解度に合わせた支援を行い、自分の考えを、根拠や事例を示しながら筋道立てて書くことができるようにする。 ・文章を見直しながら書く習慣を身に付け、自分自身で誤字脱字や文のねじれに気付いて直せるようにする。 ・既習漢字の定着のため、小テスト等を計画的に行う。
<p>6. 令和7年度(次学年)末に期待する児童の姿</p> <p>問われていることを理解し、自分の思いや考えを論理的かつ的確に表現することができる児童</p>	

〈授業改善推進プラン 令和6年度第5学年 社会科〉

<p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度の学力調査の校内平均正答率は44.4%（基礎45.1%、活用42.9%）と目標値（63.3%）、全国平均正答率（59.7%）を下回っている。 ・「特色ある地域の様子」の正答率は11.1%で、6人中3人は無答であった。解答する際の時間配分が影響している可能性がある。 ・領域にかかわらず、資料から読み取って答える選択式の問題では、比較的正答率が高かった。反面、基礎的な知識を問われる問題で正答率が低くなっている。また、資料をもとに表現する記述式の問題では、誤答もしくは無答が多く、資料から考え表現する力に課題があることが分かった。 	
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>（1）令和4年度授業改善推進プラン記載内容</p> <p>〔課題〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・写真資料から課題を読み取ったり、地図などから課題を見いだしたりすること。 ・身近な地域の学習に対して、地理的に学ぶことが難しいテーマが存在する。 <p>〔課題改善に向けた方策〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・比較的検討がしやすい複数の資料を用意し、資料から課題を見出すことができるようにする。 ・オンラインを活用した資料を用意し、地域的に難しいテーマの学習内容でも理解を確実にできるようにする。 <p>（2）今年度実践している「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎的な知識や用語について、ワークシートや家庭学習を使って定着を図っている。 ・授業の中で複数の資料を提示し、決められた時間の中で資料から読み取ったことを文章にまとめる活動を取り入れている。 ・各単元の中で出てきた重要語句をワークシートに書き留めていき、単元の最後にそれらの語句を活用して学習のまとめを作成している。 	
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <p>＜方策＞</p> <ol style="list-style-type: none"> ①基礎的な知識や用語について、ワークシートや家庭学習で定着を図る。 ②決められた時間の中で資料から読み取ったことを文章にまとめる活動を行う。 ③各単元で学んだ重要語句を活用し、学習のまとめを作成する。 	<p>＜検証方法＞</p> <ol style="list-style-type: none"> ①単元テストや学期末のまとめテストで知識の定着を確認する。 ②資料を正しく読み取っているか、問われていることに正対しているか、時間内に答えられているかなどについて確認する。 ③成果物の内容から、学習したことを適切にまとめ、表現できているか確認する。
<p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p>＜成果＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単元テストでは、年度当初の平均点が80点台前半だったが、90点台になり、10点ほど伸びた。 ・資料を正しく読み取り、いろいろな視点から気付いたことをまとめることができた。 <p>＜課題＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テストの際に、問題文を正確に読まずに誤ったデータを選んだり、答え方をしたりすることがある。 	<p>5. 令和7年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テストだけでなく、日々の授業の中でも「何を問われているのか」を教師から投げかけ、考える活動を取り入れる。
<p>6. 令和7年度(次学年)末に期待する児童の姿</p> <ul style="list-style-type: none"> ・問われていることを正確に把握し、考えたり表現したりすることができる。 	

【別紙2】

〈授業改善推進プラン 令和6年度第5学年 算数科〉

<p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none">・今年度の学力調査の校内平均正答率は56.3%（基礎61.9%、活用45.5%）と目標値（63.3%）、全国平均正答率（64.0%）を下回っている。・内容別に見ると「変わり方調べ」の正答率が22.2%、「折れ線グラフと表」が20.8%となっており、目標値・全国平均を大きく下回っている。その中でも記述式の問題で無答が目立っており、自分の考えを説明する力が不十分であることが分かった。	
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和4年度授業改善推進プラン記載内容</p> <p>[課題]</p> <ul style="list-style-type: none">・問題を時間内に解ききるための「題意を読み取る力」。 <p>[課題改善に向けた方策]</p> <ul style="list-style-type: none">・「何が問われているか」を明確にするための支援。・問題解決に図などを活用することの習慣化。 <p>(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none">・学習中の単元に関連したワークシートや家庭学習を使って、既習内容の定着を図っている。・問題文の場面や問われていることを正確に捉えるために、まず図に表してから立式する練習をしている。・自分の考えを図や言葉、式を使って書き表し、それを提示しながら説明する機会を多く設けている。	
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <p><方策></p> <ol style="list-style-type: none">①学習中の単元に関連したワークシートや家庭学習を使って、既習内容の定着を図る。②問題文を読んで図に表し、そこから立式する練習を行う。③自分の考えを図や言葉、式を使って説明する機会を多く設定する。	<p><検証方法></p> <ol style="list-style-type: none">①授業中や家庭学習、単元テストの結果から、既習内容が身に付いているかを確認する。②授業中、問題文の場면을正しく図に表せているか、また、そこから正しく立式できているかを確認する。③授業中、自分の考えを説明する場面で、筋道立てて説明できているかを見取る。
<p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p><成果></p> <ul style="list-style-type: none">・授業や帯学習、家庭学習などでくり返し復習したことで、基礎的な計算力が身に付いた。・自分の考えを図などを使って説明し、正しく立式することができた。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none">・説明の際に、「あれ」「これ」などの指示語が多く、学習言語を意識して使っていない。・問題をよく読まずに、問われていないことを答えたり、単位を間違えたりすることがある。	<p>5. 令和7年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none">・小数のかけ算・わり算や分数のたし算・ひき算、割合など、時間がたつと考え方を忘れてしまうことがあるので、家庭学習や帯学習等で全学年までの復習をくり返し行っていく。・自分の考えを書いたり発表したりするときに、学習言語を使って論理的に説明できるよう、キーワードを確認したり掲示したりするなどして意識させていく。・問題を最後まで読み、問われていることを確認したり見直したりする習慣を付けさせる。
<p>6. 令和7年度(次学年)末に期待する児童の姿</p> <ul style="list-style-type: none">・多角的に問題について考え、既習事項を基に未知の問題の解法を考えたり説明したりできる。	

〈授業改善推進プラン 令和6年度第5学年 理科〉

<p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 今年度の学力調査の結果は、校内平均正答率が56.1%で、全国平均の60.7%をやや下回る状況である。内容別では「動物のからだのつくりと運動」（校内41.7% 全国57.7%）、「自然の中の水」（校内33.3% 全国50.3%）「物のあたためり方」（校内38.9% 全国62.9%）、観点別では主体的に学習に取り組む態度（校内45.2% 全国62.8%）に課題が見られ、記述解答の正答率が低い傾向も見られた。後半の問題の正答率が低く無解答が多いことから解答に時間がかかった児童が多かったと考えられる。顕著な個人差があり下位層を中心に基礎的基本的な知識や技能を確実に身に付けさせることと、基礎基本の知識を使って論理的に思考し、自分の考えを表現する力を高めることが、今後の課題である。 	
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和4年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none"> 科学的に検証されていないことによる矛盾や勘違いを提示して揺さぶり、科学的な検証の価値を実感できるようにする。 科学的な検証手順を示し、その手順に沿って検証していくことを習慣化させる。 <p>(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none"> 基礎的基本的な知識や技能を確実に身に付けさせ、形成的な評価を行うために、毎時間や各単元の最後に振り返りを行い、復習を徹底させる。 生活経験や既習内容を生かし自分の考えを言葉や図、資料等を使って表現させることによって、論理的に思考することを習慣化させ、表現力を高める。 	
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <p>＜方策＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ①基礎的基本的な知識や技能を確実に身に付けさせるために、各単元の最後に振り返りや復習を徹底させる。 ②生活経験や既習内容を生かし自分の考えを表現させることによって、論理的に思考することを習慣化させる。 	<p>＜検証方法＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ①単元テストにより、知識・技能分野の評価がB基準（正答率70%）以上になったか。 ②単元テストにより、思考・判断・表現分野の評価がB基準（正答率70%）以上になったか。
<p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p>＜成果＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ①基礎的基本的な知識や技能を身に付けることができた。 ②自分の考えを表現できるようになり、思考・判断・表現の力が高まった。 <p>＜課題＞</p> <ul style="list-style-type: none"> テストでは、学習用の理解や定着に個人差がかなりあることがわかった。既習事項の確認などを丁寧に行う必要がある。 自分の考えを表現することがやや苦手な児童もいるので、個別の支援も必要である。 	<p>5. 令和7年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> 基礎的基本的な学習内容の一層の定着を図る。 既習事項や適切な用語等を用いて、自分の考えをわかりやすく表現できるように継続して指導していく。
<p>6. 令和7年度(次学年)末に期待する児童の姿</p> <p>身の回りの自然科学的な事象に興味・関心をもち、主体的に解決し、考えを表現することができる。</p>	

〈授業改善推進プラン 令和6年度第5学年 音楽科〉

<p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題</p> <p>長年、器楽領域に課題があり、消極的な発言をする生徒が多いため、昨年度は「あきらめずに最後まで取り組もう」という目標を設定し、器楽の指導を行った。苦手を感じている生徒については、そばで見守り、適宜指導をしている。根気よく目標を掲げた結果、音楽会では前年度の苦手を克服し、達成感を味わうことができ、次年度の音楽会の演奏曲も考える発言もあり器楽に対する苦手意識を克服する傾向がある。ただし、器楽領域の中でもリコーダーは改善の余地があり、今後の指導の見直しを行っていかなければならない。</p>	
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和4年度授業改善推進プラン記載内容</p> <p>器楽の単元になると説明を聞いて演奏するが、音は合っているが運指を守らない、正しい姿勢で演奏しないなどの課題があったが運指・姿勢は改善されている。しかし、フレーズを感じながら演奏したり、指をスムーズに動かしたりすることが難しい。</p> <p>(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等</p> <p>不安を解消するために個人練習時間を設定し、うまく演奏できていることやこうするともっとうまく演奏できるということを含め、言葉がけを意識している。また、課題解決のためにまずは自分で考え、言葉や実際に音を出すなどで表現し、クラスメイトとヒントを出し合い、自分の考えに自信をもつ場面を設定している。</p>	
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <p>＜方策＞</p> <p>①学期ごとに行うアンケート</p> <p>②授業内の実技発表</p>	<p>＜検証方法＞</p> <p>①学期ごとに行う授業アンケートの内容の分析</p> <p>②授業内での実技発表の分析（他者の意見や映像分析）</p>
<p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p>＜成果＞</p> <p>昨年度より授業内での映像分析を多くした結果、自分の演奏を客観的に分析するとともに、映像を観なくても自分の演奏に注意深く耳を傾けることができた。また、どのようにすればバランスよく音楽が聞こえるのかにも注目し、合奏を行うことができた。</p> <p>「やりたいこと」と「できること」は違うが、やりたいことができることに変わる努力をし続けられた。</p> <p>＜課題＞</p> <p>できるまで、少し時間がかかってしまう。</p>	<p>5. 令和7年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p> <p>・技能については、粘り強く、自分たちが納得できるまで何度も練習できる児童である。しかし、制限時間(日数)を設けたうえで目標を達成できるような、課題設定や教材の工夫が必要である。</p>
<p>6. 令和7年度(次学年)末に期待する児童の姿</p> <p>最高学年として、他学年からもあんな演奏がしたいと憧れられるような児童</p>	

〈授業改善推進プラン 令和6年度第5学年 図画工作科〉

<p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上級生の作品や様々な情報に触れる中で、自分のアイデアや表現に自信をもてないなど、イメージと技能の乖離に悩む児童が半数を超えている。 ・同年代の表現や作品に対しての感情をうまく整理して推進力に変えていける児童と、悩んで迷って手が止まってしまう児童がおり、自己の表現だけで完結しない他者の視点が影響する活動へと変化している。 			
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和4年度授業改善推進プラン記載内容</p> <p>【課題】、授業への興味・関心は高いが、学習内容の確実な定着については、改善が図られるとよいと考えられる。</p> <p>【改善策】表現活動における造形遊びの過程や振り返りにおいて、児童自らがタブレット端末やデジタルカメラを活用することで、図画工作科の学習におけるメタ認知能力を高める。アナログの造形日記による振り返りとデジタルのタブレット端末を活用した振り返りをハイブリット化し、造形的な視点による創造性の涵養を図る。データに関しては、評価評定に活かし、指導と評価の一体化及び授業改善に役立てる。</p> <p>【評価】タブレット端末を活用した情報や資料の収集に関しては積極的に行っており、視野の広がりを感じられ、それが自身の表現力に対する向上心にもつながっている。一方で、模倣することが多くなり、自ら主題を生み出したり試行錯誤したりする場面が少ない。レベルの高い表現への憧れと、現在の自分のもつ知識や技能に乖離があり、前向きに取り組めない場面も見られる。これまで学んだことや身に付けた知識・技能、今取り組んでいることの積み重ねが表現力や創造力を磨くことにつながっているという実感がもてるような授業の組み立てと、今できることを楽しみ受け入れながら活動に取り組めるよう声かけをしていく必要がある。</p> <p>(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作品の相互鑑賞や振り返り活動の中で、自分の意図したことと実際に行った工夫を関連させながら言語化して他者に伝えることに力を入れ、表現の過程や結果を自分自身で整理して次につなげていけるようにしている。 			
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p><方策></p> <ul style="list-style-type: none"> ①年間2回授業評価アンケートを実施する。 ②授業ごとの振り返りや題材ごとのまとめの活動を充実させる。 </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p><検証方法></p> <ul style="list-style-type: none"> ①年間2回の授業評価アンケートの実施内容分析 ②振り返りワークシートのフィードバックを行い、自己評価を継続して比較する。 </td> </tr> </table>		<p><方策></p> <ul style="list-style-type: none"> ①年間2回授業評価アンケートを実施する。 ②授業ごとの振り返りや題材ごとのまとめの活動を充実させる。 	<p><検証方法></p> <ul style="list-style-type: none"> ①年間2回の授業評価アンケートの実施内容分析 ②振り返りワークシートのフィードバックを行い、自己評価を継続して比較する。
<p><方策></p> <ul style="list-style-type: none"> ①年間2回授業評価アンケートを実施する。 ②授業ごとの振り返りや題材ごとのまとめの活動を充実させる。 	<p><検証方法></p> <ul style="list-style-type: none"> ①年間2回の授業評価アンケートの実施内容分析 ②振り返りワークシートのフィードバックを行い、自己評価を継続して比較する。 		
<p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p><成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・振り返りや自己評価を積み重ねながら、自分の得意と不得意を考えながら課題解決に取り組むことができた。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・題材によって意欲のむらがある児童が多く、取り組みの姿勢が一定にならないことが課題。 	<p>5. 令和7年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・題材に対する好き嫌いの感情が強く出てくるため、課題解決のステップを細かく設定し、苦手なことへの対処方法についてバリエーションがあることを示し、やるべきことと回避してもよいことの区別がつくような指導をしていく。 		
<p>6. 令和7年度(次学年)末に期待する児童の姿</p> <p>その場の感情だけでなく見通しをもって主体的に課題解決に取り組める児童</p>			

【別紙2】

〈授業改善推進プラン 令和6年度第5学年 家庭科〉

<p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none">・ 基礎的な知識をもとに実生活と結び付けながら振り返ること。・ 技能の個人差が大きく、自己肯定感が低い児童がいること。	
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和4年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none">・ 該当項目なし。 <p>(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none">・ ICT機器の活用や、実習・実験など体験的な活動を多く取り入れられるように工夫し、実生活を話題に取り上げながら内容の理解を深められるような授業を展開する。・ 実習や製作の記録課題、ICT機器を活用した毎授業の振り返りシートに教師がコメントを返してフィードバックをしている。	
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <p><方策></p> <p>①年間3回の授業評価アンケートの実施や毎授業行う振り返りシートから児童の理解度を図り、その都度フィードバックを行う。</p> <p>②児童の理解度に合わせて、個に応じた支援を行い、成功体験を増やす。</p>	<p><検証方法></p> <p>①年間3回の授業評価アンケート、実習や製作の記録課題、振り返りシート</p> <p>②実習や製作の記録課題、製作物、ワークシート、題材毎の単元テスト</p>
<p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p><成果></p> <p>①授業の内容について考えを深められるようになった。(振り返りシートの記述より)</p> <p>②個に応じた支援や学級担任の協力も得ながら、作品の完成につなげることができた。(製作物より)</p> <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none">・ 既習事項を活用して意見や考えを表現したり、実生活と結び付けて考えたりすること。	<p>5. 令和7年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none">・ 基礎的な知識や技能を定着させ、実践的で体験的な授業を展開し、既習事項を活用して振り返りをするように児童の意識を高める。また、様々な題材において工夫を凝らして、実習などの機会を増やす。
<p>6. 令和7年度(次学年)末に期待する児童の姿</p> <p>既習事項を活用し、自身の生活をよりよくしようとする意識を高め、工夫する児童</p>	

【別紙2】

〈授業改善推進プラン 令和6年度第5学年 体育科〉

<p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none">・楽しみながら，練習や記録の向上に向けて，積極的に実技に取り組むことができている。・児童によって周囲にアドバイスなどを伝え合う力に差があることは課題である。	
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和4年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none">・授業評価アンケートでは，「体育科の授業が好きか」という項目において，否定的な回答をしている児童も見られた。主体的に学習に取り組んでいくことができるよう，授業改善を行っていくことが必要である。・新体力テストにおいて，全ての分野で高い記録を示している児童が複数いる一方，「20m シャトルラン」「ソフトボール投げ」等で記録が伸び悩んでいる児童が散見された。このことから，児童によって体力に開きがあることが分かる。 <p>(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none">・ICT機器を活用し，運動のポイントや自己の技能を視覚的に確認できるようにしている。・個々の体力や技能に応じた課題・ルールを設定し，運動の特性に応じた楽しさを味わいながら，活動することができるようにしている。	
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <p><方策></p> <ul style="list-style-type: none">①年間2回授業評価アンケートを実施する。②授業ごとの振り返りや題材ごとのまとめの活動を充実させる。	<p><検証方法></p> <ul style="list-style-type: none">①年間2回の授業評価アンケートの実施内容分析②振り返りワークシートのフィードバックを行い，自己評価を継続して比較する。
<p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p><成果></p> <ul style="list-style-type: none">・授業評価アンケートの結果と児童の実態が大きく乖離することなく，授業に取り組むことができた。・お手本動画と自己の技能の比較をし，課題克服に向けた練習に積極的に取り組むことができた。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none">・技能でおさえたいポイントを理解したうえで，他者にアドバイスすることが難しい児童がいる。	<p>5. 令和7年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none">・自己の技能習得の達成度にかかわらずアドバイスし合えるように，どこにポイントをおいて観察すればよいかを一緒に考えたり提示したりする。
<p>6. 令和7年度(次学年)末に期待する児童の姿</p> <p>自己の技能を高め，児童が互いにはげまし高め合えるような思考力・判断力・表現力を育む児童</p>	

〈授業改善推進プラン 令和6年度第5学年 外国語科〉

<p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 教科書で学習した単語やフレーズの聞き取りは良好であるが、スモールトークにおいて「What～？」や「Who～？」、「Why～？」などと聞かれたときに、何を問われているのかつかめないことが多い。 自分の好きなものなどを英語で表現する際に、学習した単語やフレーズから自分の伝えたいことに近いものを選び取って組み合わせるのではなく、日本語をそのまま英語に置き換えて表現しようとするため、何も言えずに沈黙してしまうことが多い。 アルファベットや基礎的な単語の読み書きに課題がある。 			
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和4年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和4年度未実施のため該当なし。 <p>(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none"> キーフレーズの練習だけでなく、キーフレーズから「Why～？」や「What～？」などを使った質問を続け、2～3往復の短い会話になるような活動を多く取り入れている。 表現力向上のため、単元の終わりや学期末にパフォーマンステストを行っている。 アルファベットや重要語句をワークシートに書く活動を取り入れている。 			
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>＜方策＞</p> <ol style="list-style-type: none"> ①キーフレーズを使った2～3往復の短い会話（スモールトーク）を毎回の授業で取り入れる。 ②単元の終わりや学期末にパフォーマンステストを行い、表現力向上を図る。 ③アルファベットや重要語句をワークシートに練習する活動を取り入れる。 </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>＜検証方法＞</p> <ol style="list-style-type: none"> ①授業の中で、ALTや教師、友達との1対1の会話の様子を観察する。 ②パフォーマンステストで、学習した単語やフレーズを組み合わせて自分のことを表現できているか確認する。 ③ワークシートや単元テストで、アルファベットや重要語句が正しく書けているか確認する。 </td> </tr> </table>		<p>＜方策＞</p> <ol style="list-style-type: none"> ①キーフレーズを使った2～3往復の短い会話（スモールトーク）を毎回の授業で取り入れる。 ②単元の終わりや学期末にパフォーマンステストを行い、表現力向上を図る。 ③アルファベットや重要語句をワークシートに練習する活動を取り入れる。 	<p>＜検証方法＞</p> <ol style="list-style-type: none"> ①授業の中で、ALTや教師、友達との1対1の会話の様子を観察する。 ②パフォーマンステストで、学習した単語やフレーズを組み合わせて自分のことを表現できているか確認する。 ③ワークシートや単元テストで、アルファベットや重要語句が正しく書けているか確認する。
<p>＜方策＞</p> <ol style="list-style-type: none"> ①キーフレーズを使った2～3往復の短い会話（スモールトーク）を毎回の授業で取り入れる。 ②単元の終わりや学期末にパフォーマンステストを行い、表現力向上を図る。 ③アルファベットや重要語句をワークシートに練習する活動を取り入れる。 	<p>＜検証方法＞</p> <ol style="list-style-type: none"> ①授業の中で、ALTや教師、友達との1対1の会話の様子を観察する。 ②パフォーマンステストで、学習した単語やフレーズを組み合わせて自分のことを表現できているか確認する。 ③ワークシートや単元テストで、アルファベットや重要語句が正しく書けているか確認する。 		
<p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p>＜成果＞</p> <ul style="list-style-type: none"> パフォーマンステストでは、どの児童も問われていることに対して正しく答えることができた。 既習の基礎的な単語については読めるものが増えた。 <p>＜課題＞</p> <ul style="list-style-type: none"> 質問に対して文ではなく単語で答えてしまう。 単語の綴りと発音が結びついていないため、正しく読んだり書いたりすることがまだ難しい。 	<p>5. 令和7年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> 短い会話の中で、主語と述語を入れた文の形でやり取りすることを徹底する。 フォニックスを取り入れ、基本的な単語の読み書きを積極的に行っていく。 		
<p>6. 令和7年度(次学年)末に期待する児童の姿</p> <ul style="list-style-type: none"> 外国語に臆せず、積極的に、聞く、読む、話す（やり取り・発表）、書くことができる。 			

【別紙2】

〈授業改善推進プラン 令和6年度第6学年 国語科〉

<p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none">・今年度の学力調査の学級平均正答率は78.8%（基礎87.5%，活用59.4%）と目標値，全国平均正答率より全体的に高水準を維持している。・「物語の内容を読み取る」の項目のみ全国平均正答率を下回っている。このことから物語の読解について習熟が不十分であることが分かった。	
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和4年度授業改善推進プラン記載内容</p> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none">・特別な支援を必要とする児童において，個別指導なしに自力で長い文章を書くことは，かなり難しい点が課題である。 <p>【課題改善に向けた方策】</p> <ul style="list-style-type: none">・各単元の学習内容に合わせて，文章を書く活動を取り入れる。 <p>(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none">・国語科はもちろんであるが，教科に限らず，感想文，報告文，説明文の要旨をまとめる活動，お礼の手紙等，文章を書く機会を多く設けている。記述が滞る場面ではタブレットによる活動と置き換えることで円滑に行うことも期待できる。・従前より各単元の学習内容に合わせて，個別指導のうえ文章を書く活動を取り入れてきた結果，学級全体として長い文章でも記述できる力が身に付いてきている。	
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <p><方策></p> <p>①読書の時間を充実させると共に，要約や感想文を記述させるなど，文章読解の機会をより多く設定する。</p>	<p><検証方法></p> <p>①単元テストにおける「物語の内容を読み取る」項目において正答率が80%以上であるか確認する。</p>
<p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p><成果></p> <ul style="list-style-type: none">・テストの達成率は概ね達成できている。タブレットを多用し文章を記述する機会を増やすことができた。指導を通して書く力のある程度育むことができたように思う。またタブレット記述後，紙に転記する活動も行うなどした。今後も継続した指導が必要である。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none">・紙への記述時間は相対的に減少している。字形の乱れなどには課題が残る。	<p>5. 令和7年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none">・「書く」単元の際には，目的を明確にもって書くことを指導する。また，文章中のよい表現は学級で共有し，優れた表現について意識を高め合う。・文字を書く際に，字形の乱れに留意すること，学習した漢字については意識的，積極的に書くことを指導する。読書活動を通じ語彙を増やす。
<p>6. 令和7年度(次学年)末に期待する児童の姿</p> <ul style="list-style-type: none">・令和6年度よりも，字形を意識し，漢字を積極的に用いることができる。・文章をどんな方法でも様々な表現方法で自分の考えを表すことができる。	

【別紙2】

〈授業改善推進プラン 令和6年度第6学年 社会科〉

<p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none">・今年度の学力調査の学級平均正答率は67.9%（基礎77.5%，活用43.8%）と目標値（64.5%），全国平均正答率（62.8）を上回っている。・「日本の国土と人々の暮らし」「日本の水産業」「日本の食料生産」「自動車をつくる工業」について，全国平均値を若干下回っている。地理的特性上からか，国土全体を見通す内容に課題がある。	
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和4年度授業改善推進プラン記載内容</p> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none">・ICTを活用したことで，児童の興味関心や意欲を高めることはできたが，実体験には勝らない点が課題である。 <p>【課題改善に向けた方策】</p> <ul style="list-style-type: none">・教科書で学習する内容の確実な定着とともに，ICTを活用してより深い学びを実現する。 <p>(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none">・タブレット機器を活用し，「社会のキーワード」としてスライドアプリケーションに重要語句についての説明を書き溜めていく。単元の最後にはまとめの活動を同アプリケーションにおいて行う。・折に触れ，事象の詳細の学習にとどまらないよう，日本地図，世界地図，年表における時系列など，全体を俯瞰した際の位置付けを振り返る。	
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <p><方策></p> <ul style="list-style-type: none">①日本地図，世界地図，年表等，大きな枠組みを意識させる。②各単元における重要語句を使って，単元のまとめを作成させる。	<p><検証方法></p> <ul style="list-style-type: none">①単元テスト，学力テストの結果②スライドの内容を単元ごとに確認し，評価する。
<p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p><成果></p> <ul style="list-style-type: none">・単元テストでは年間を通じて正答率80%以上であった。スライドにまとめる形式を年間を通じて行った。記述内容の向上がみとれたことは成果である。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none">・知識として身に付けられたことは多くあるものの，現実との結びつきの実感について課題が残る。	<p>5. 令和7年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none">・スライドを指導に使う場合であれば，参照資料を充実させたい。・視聴覚や実物資料を充実させるなどして，自己の生活や現実の世界との結びつきを喚起させたい。
<p>6. 令和7年度(次学年)末に期待する児童の姿</p> <p>自分の身の回りの生活が社会科で学習した内容を通し，日本の過去や，世界と現実と結びついていることを実感できる。</p>	

【別紙2】

〈授業改善推進プラン 令和6年度第6学年 算数科〉

<p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none">・今年度の学力調査の学級平均正答率は53.0%（基礎60.0%，活用31.3%）と目標値（62.0%），全国平均正答率（61.7）と下回っている。・「面積」「割合」「円グラフや帯グラフ・平均」では全国平均との顕著な差が見られ，課題である。・「立体と体積」では全国平均を上回っており，「面積」については改善の余地がある。・計算領域等，基礎的単元より，応用的単元の課題がより大きい傾向にある。	
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和4年度授業改善推進プラン記載内容</p> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none">・反復練習による基礎基本の徹底を目指した結果，児童の学習意欲が減退した点が課題である。 <p>【課題改善に向けた方策】</p> <ul style="list-style-type: none">・教科書やドリルの練習問題を，すべて正解になるまで復習させる。 <p>(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業を実現するための工夫等</p> <p>①問題を読み取り，数直線や図で表現し，場面に応じて立式する活動を行う。</p> <p>②「割合」については日常を通じて必要である場面を想起させると共に，他の教科の授業（社会，理科等）においても必要な場面の提示を行い，定着を目指す。</p>	
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <p><方策></p> <p>①問題文を図や数直線で表現し，立式する流れを定着させる。</p> <p>②「割合」について問題集・小テストを行う。</p>	<p><検証方法></p> <p>①ノートの内容確認，単元テストの正答率や学力テストの結果</p> <p>②単元テストの正答率や学力テストの結果</p>
<p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p><成果></p> <ul style="list-style-type: none">・単元テストでは年間を通じて正答率80%以上であった。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none">・テスト時には結果が出ていても，復習時には定着に至っていない既習事項がある。	<p>5. 令和7年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none">・自力解決と発表の時間を十分に確保する。・既習事項について，広範な内容にわたり，日常的に取り組ませる。
<p>6. 令和7年度(次学年)末に期待する児童の姿</p> <p>既習内容から，数の感覚，量感，単位等，算数的にひと連なりのものとしてとらえることができる。</p>	

【別紙2】

〈授業改善推進プラン 令和6年度第6学年 理科〉

<p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none">今年度の学力調査の結果は、校内平均正答率が50.0%で、全国平均の60.3%をかなり下回る状況である。内容別では「魚のたんじょう」（校内33.3% 全国54.6%）、「流れる水のはたらき」（校内41.7% 全国60.1%）「物のとけ方」（校内25.0% 全国55.0%）、観点別では知識・技能（校内55.8% 全国68.3%）に課題が見られた。顕著な個人差があり下位層を中心に基礎的基本的な知識や技能を確実に身に付けさせることが、今後の課題である。	
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和4年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none">観察や実験を何度も行い、その方法を確実に身に付けさせる。 <p>(2) 今年度実践している「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none">基礎的基本的な知識や技能を確実に身に付けさせ、形成的な評価を行うために、毎時間や各単元の最後に振り返りを行い、復習を徹底させる。生活経験や既習内容を生かし自分の考えを言葉や図、資料等を使って表現させることによって、論理的に思考することを習慣化させ、表現力を高める。	
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <p>＜方策＞</p> <ul style="list-style-type: none">①基礎的基本的な知識や技能を確実に身に付けさせるために、各単元の最後に振り返りや復習を徹底させる。②生活経験や既習内容を生かし自分の考えを表現させることによって、論理的に思考することを習慣化させる。	<p>＜検証方法＞</p> <ul style="list-style-type: none">①単元テストにより、知識・技能分野の評価がB基準（正答率70%）以上になったか。②単元テストにより、思考・判断・表現分野の評価がB基準（正答率70%）以上になったか。
<p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p>＜成果＞</p> <ul style="list-style-type: none">①基礎的基本的な知識や技能を十分に身に付けることができた。②自分の考えを表現できるようになり、思考・判断・表現の力が高まった。 <p>＜課題＞</p> <ul style="list-style-type: none">テストでは、設問の意味を正確に捉えるのが難しいこともあった。丁寧に取り組むよう声掛けをしていく。自分の考えを表現することがやや苦手な児童もいるので、個別の支援も必要である。	<p>5. 令和7年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none">基礎的基本的な学習内容の一層の定着を図る。既習事項や適切な用語等を用いて、自分の考えを表現し合うことを通して、お互いの考えも深めていけるように学習展開を工夫していく。
<p>6. 令和7年度(次学年)末に期待する児童の姿</p> <p>身の回りの自然科学的な事象を主体的に解決し、考えを表現し深め合うことができる。</p>	

〈授業改善推進プラン 令和6年度第6学年 音楽科〉

<p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題</p> <p>楽器を演奏する能力が高く、音楽会では手ごたえを感じたようであった。 前年度の課題であった、基礎的な技能は身に付いているが、自分の感覚に頼って演奏しているところが見受けられたということに関しては改善され、仲間とただ合わせるだけではなく、「ここは何かおかしい」と自分と他者の演奏を客観的に捉え、改善していく力が身に付き始めている。しかし、曲想に合った表現を試みるが自分自身のイメージしている音と少し違うため、知覚・感受したこと技能が関連付けされていないこともあるのが課題である。</p>	
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和4年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感覚だけではなく、知識をつかって演奏すること <p>感覚ではなく、他者に合わせそうとする意識をもち、様々なことを試しながら表現活動に取り組んでいる。</p> <p>(2) 今年度実践している「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分たちが演奏した音楽を録画や録音をし、客観的に見たり聴いたりする回数を増やした結果、自分たちの変容を感じ取ることができるようで、試行錯誤しながら作品づくりや演奏活動に取り組んでいる。 	
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <p>＜方策＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ①学期ごとに行う授業アンケート ②授業内の実技や作品発表 	<p>＜検証方法＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ①学期ごとに行う授業アンケートの内容の分析 ②実技や作品発表の分析（他者の意見や映像分析）
<p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p>＜成果＞</p> <p>歌唱・器楽・鑑賞において、この場面はどのような曲想なのかを教材ごとに確認することで、適切な記述や表現を見ることができた。</p> <p>＜課題＞</p> <p>歌唱・器楽に関しては真面目に取り組み、できているのに不安になり自信がなく、結果につながらないという流れになってしまう。</p>	<p>5. 令和7年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p> <p>自己肯定感を高める言葉かけが必要である。 (これだけ練習しているから大丈夫など)</p>
<p>6. 令和7年度(次学年)末に期待する児童の姿</p> <p>器楽や歌唱, 創作など自分の取り組みや作品に自信をもって取り組む生徒</p>	

〈授業改善推進プラン 令和6年度第6学年 図画工作科〉

<p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・例や資料を見ながら、絵や立体に表す活動に集中して取り組むことができるが、自ら主題を生み出したり、自分らしい表現を見付けたりすることに難しさを感じる児童が半数以上である。 ・イメージしたことに対して、表現がうまくいかない場面で主体的に試行錯誤を繰り返せる児童は少なく、知識や技能が不足しているなどサポートが必要な場面で困り感を伝えられずに時間を浪費してしまう児童もいる。 	
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和4年度授業改善推進プラン記載内容</p> <p>【課題】授業への興味・関心は高いが、学習内容の確実な定着については改善が図られるとよいと考えられる。</p> <p>【改善策】鑑賞活動においては、感じ取ったことや思ったこと、考えたことなどを、話したり聞いたり話し合ったりする、言葉で整理するなど、言語活動の充実を一層図る指導を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・表現活動における造形遊びの過程や振り返りにおいて、児童自らがタブレット端末やデジタルカメラを活用することで、図画工作科の学習におけるメタ認知能力を高める。 <p>【評価】それぞれが自分の活動に集中して取り組める一方で、協働的な学びの中でアイデアをブラッシュアップするような場面が少なかったのではないかと感じられる。どうすればよいのか、と立ち止まったときの試行錯誤や対話的な学びから深められる活動を増やして課題解決力を養っていく必要がある。</p> <p>(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業ごとの振り返りワークシートに対するフィードバックを充実させる。 ・題材ごとのまとめの活動や自己評価、分析を丁寧に行い、汎用的な課題解決力を向上させて次につながる取り組みにするための声かけを増やしている。 	
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <p>＜方策＞</p> <p>①年間2回授業評価アンケートを実施する。</p> <p>②授業ごとの振り返りや題材ごとのまとめの活動を充実させる。</p>	<p>＜検証方法＞</p> <p>①年間2回の授業評価アンケートの実施内容分析</p> <p>②振り返りワークシートのフィードバックを行い、自己評価を継続して比較する。</p>
<p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p>＜成果＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・振り返りワークシートへの入力と自己評価に丁寧に取り組み、次の授業につなげてより良い作品づくりに生かそうという姿勢が見られた。 <p>＜課題＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・制作が始まってからは順調であるが、自分が作りたいものを考える工程でなかなかアイデアが出せず苦戦している児童がいることが課題。 	<p>5. 令和7年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題解決のための思考が主体的にできるよう、状況に応じたファシリテーションを継続して行う。 ・見通しをもって活動に取り組めるような導入を行う。
<p>6. 令和7年度(次学年)末に期待する児童の姿</p> <p>自分らしく豊かに発想し、実現のための構想を練ることができる生徒</p>	

〈授業改善推進プラン 令和6年度第6学年 家庭科〉

<p>1. 『『わかる』から『できる』を体感する授業』を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎的な知識を踏まえて自身の生活をよりよく改善しようとする工夫をする児童が少ない。 	
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和4年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・該当項目なし <p>(2) 今年度実践している『『わかる』から『できる』を体感する授業』を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICT機器の活用や, 実習・実験など体験的な活動を多く取り入れられるように工夫し, 実生活と結び付けて考えられるような話題を取り上げ, 内容の理解を深められるような授業を展開する。 ・実習や製作の記録課題, ICT機器を活用した毎授業の振り返りシートに教師がコメントを返してフィードバックをしている。 	
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <p><方策></p> <p>①実生活と結び付けて考えられるような身近な話題や生活課題について考える機会を増やす。</p> <p>②既習事項を活用しながら, 自身の生活をよりよく改善しようとする具体的に表現できるように個に応じた適切な支援を行う。</p>	<p><検証方法></p> <p>①年間3回の授業評価アンケート, 実習や製作の記録課題, 振り返りシート</p> <p>②実習や製作の記録課題, 製作物, ワークシート, 題材毎の単元テスト</p>
<p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p><成果></p> <p>①調理実習などの体験的な活動を通して, 学習をまとめ, 自身の生活と結び付けて考えられるようになってきた。(振り返りシートの記述より)</p> <p>②振り返りの内容や単元テストの記述問題における内容に変化が見られ, 具体的に書こうとする意識が高まった。(振り返りシートの記述・単元テストより)</p> <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・自身の生活をよりよく改善しようとしたり, 製作物に関心をもって工夫したりする児童が少ない。 	<p>5. 令和7年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実践的で体験的な授業の時間を確保し, 実生活に結び付けて考えられるような授業を展開する。また, 振り返りについても既習事項を活用し, 自身の生活に感心をもってよりよく改善しようとする意識を高めていく。
<p>6. 令和7年度(次学年)末に期待する児童の姿</p> <p>自身の生活に興味関心をもって, 既習事項を活用しながらよりよく改善しようとする生徒</p>	

【別紙2】

〈授業改善推進プラン 令和6年度第6学年 体育科〉

<p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none">・新体力テストでは、昨年度の記録と比較しながら記録向上に向けて積極的に学習に取り組むことができた。新体力テストの練習・測定で終わらず、各項目が競技にどう生きてくるかを体感できるようになるのが望ましい。	
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和4年度授業改善推進プラン記載内容</p> <p>【課題】</p> <p>時間ごとに重点的に指導する内容を絞り、一つ一つの動きや技能を確実に定着させる。</p> <p>【改善策】</p> <p>楽しく体を動かすことができるように、ルールを工夫して運動量を増やすとともに、重点的に指導する内容を絞ることで、一つ一つの動きや技能を確実に定着させる。</p> <p>(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none">・ICT機器を活用し、運動のポイントや自己の技能を視覚的に確認できるようにしている。・個々の体力や技能に応じた課題・ルールを設定し、運動の特性に応じた楽しさを味わいながら、活動することができるようにしている。	
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <p><方策></p> <ul style="list-style-type: none">①年間2回授業評価アンケートを実施する。②授業ごとの振り返りや題材ごとのまとめの活動を充実させる。	<p><検証方法></p> <ul style="list-style-type: none">①年間2回の授業評価アンケートの実施内容分析②振り返りワークシートのフィードバックを行い、自己評価を継続して比較する。
<p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p><成果></p> <ul style="list-style-type: none">・授業評価アンケートの結果と児童の実態が大きく乖離することなく、授業に取り組むことができた。・手本や動画と自己の技能の比較をし、課題克服に向けた練習に積極的に取り組むことができた。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none">・まとめの活動をより充実させるために、教材の工夫をする必要がある。	<p>5. 令和7年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none">・自己の技能習得の達成度にかかわらずアドバイスし合えるように、どこにポイントをおいて観察すればよいかを一緒に考えたり提示したりする。
<p>6. 令和7年度(次学年)末に期待する児童の姿</p> <p>心と体を一体として捉え、豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を伸ばせる生徒</p>	

【別紙2】

〈授業改善推進プラン 令和6年度第6学年 外国語科〉

<p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none">・短文のリスニング，スピーキングはよくできる。・英語の語彙がまだまだ少なく，対応する日本語をなかなかすぐに想起できない。	
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和4年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none">・令和4年度未実施のため該当なし。 <p>(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none">・ALTとのコミュニケーションを多く設定し，なるべく児童自ら英語を発語する機会を増やす。	
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <p><方策></p> <ul style="list-style-type: none">①教科書に準じた進行とともに，ALTとの会話の機会を増やす。②ALTとのコミュニケーションの中でより多くの単語に触れる。	<p><検証方法></p> <ul style="list-style-type: none">①単元テストや授業の様子から見取る。②ワークシートから見取る。
<p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p><成果></p> <ul style="list-style-type: none">・アクティビティ，ゲームなどを通して，外国語に対し臆することなく意欲的に取組む児童の姿が多く見られた。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none">・ALTとのコミュニケーションに関しては，まだ課題がある。	<p>5. 令和7年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none">・どの単元でも，自分からALTに積極的に話しかけようとする雰囲気づくり。・楽しめるアクティビティやゲームをさらに充実させる。
<p>6. 令和7年度(次学年)末に期待する児童の姿</p> <p>ALTと積極的にコミュニケーションを取ろうとすることができる。</p>	